

1. 施策の概要

施策シート【06_01】

観光にぎわい部、健康福祉部

施策名称		からだの健康の増進			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	6. 誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち			
めざす姿（主観的満足度）		心身ともに健康に暮らせる環境が整っている			
概要		健康増進に関する情報提供や相談体制の充実、疾病の予防や早期発見を進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度			R8年度
	R9年度				
	1. がん対策の推進				
	2. 健康診査の効果的な受診勧奨				
	3. 個人健康記録（PHR）を活用した健康相談				
4. 健康スポーツの普及					
5. 健康経営の促進					
6. 歯科口腔保健の推進					
7. 健康増進計画等の推進					
5. 健康経営の促進					
○ひらかた健康優良企業に対する定期的な運動機会の提供、企業対抗運動会の開催					

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度58.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で73.2%、最も低いのが40歳台で49.2%である。
- ・健康状態がよいとした人の約8割が、また、趣味や生きがいがある人の約6割が心身ともに健康に暮らせる環境が整っていることに満足しており、健康状態や趣味等の有無が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.8ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「特定健康診査受診率」、「特定健康診査の受診勧奨割合」、「PHRの活用についての認知度」、「健康パッケージ提供数」、「健康スポーツイベント等の参加者数」、「1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合」、「適正体重を維持している人」、「かかりつけ歯科医を有する人の割合」、「コンソーシアム連携事業への参加者数」については、目標を達成している。「大腸がん検診受診率」、「PHRを活用した健康相談件数」、「従業員の健康づくりに取り組む企業数（累計）」、「歯周病検診の要治療者の受診率」については、未達成だが、目標には近づいている。「健康づくりに関する教室・講演会への参加者数」については、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. がん対策の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
がんに関する正しい知識の普及啓発及びがん検診等を実施。併せて、ウィッグ等の補整具の購入費用を一部助成するなど、がんの「予防」から「早期発見」及び「患者支援」まで、大学や企業等とも連携し、総合的ながん対策を推進。	①ウィッグ等の補整具の購入費用を一部助成 ②がん検診受診率向上に向けて医療機関や関係機関と連携した受診勧奨の取組及び国の指針に基づくがん検診の実施に向けて検討 ③大学や企業等との連携によりがんに関する正しい知識の普及等がん対策を含む健康医療福祉に対する啓発活動・情報発信の協力	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
補整具の購入費用助成や大学企業との連携については今後も継続実施する。受診勧奨の取組及び指針に基づくがん検診の実施については実施に向けて準備していく。	①問題なく実施できた ②国の指針変更の説明会などに参加し、方向性を検討した ③健康フェアなどの機会を利用して啓発した	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
大腸がん検診受診率	市が実施する大腸がん検診の受診者／対象者（40歳以上70歳未満の者）	7.7	%	健康づくり課	1. がん対策の推進
各年度の実績		6.6	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 R6の受診率（40歳以上70歳未満）は6.6%と前年度より0.2ポイント上昇しているが目標値には届いておらず、更なる若い世代への勧奨が必要。					

2. 健康診査の効果的な受診勧奨

取り組みの内容	R6年度	担当課
枚方市国民健康保険被保険者のレセプトや特定健康診査等のデータ分析を行うとともに、特定健康診査未受診者に対して、大阪大学が作製したAIツールを活用した受診勧奨を実施。	6月以降に行った前年度データの分析結果から効率的・効果的な受診勧奨の手法を秋頃に検証して活用	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後は分析した検証結果をもとに、受診勧奨に取り組んでいく。	令和5年度までの検証結果より、受診勧奨は年2回実施し、うち1回目は内容がシンプルなのはがきの送付、2回目はショートメッセージサービス（SMS）の送信を行った。また、1回目からSMSによる受診勧奨が効果的か引き続き検証（検証結果は令和7年度）をしたが、効率的・効果的な受診勧奨として、一定の方法を構築することできた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
特定健康診査の受診勧奨割合	特定健康診査の受診を勧奨した人数／対象者（未受診者）	100	%	健康づくり課	2. 健康診査の効果的な受診勧奨
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 すべての対象者に対して、はがきによる送付だけでなく、ショートメッセージサービスも活用することで効果的に受診勧奨をすることができた。					

3. 個人健康記録（PHR）を活用した健康相談

取り組みの内容	R6年度	担当課
市民自らが、スマホ等で時系列的に健康状態を把握し、適切な健康行動を実践できるよう、国が進める健康・医療・介護の分野等の情報を集約し活用すること」を踏まえ、その集約されたPHR情報の活用を周知するとともに、健康相談対応を実施。	①PHRの活用等の周知 ②PHRの環境整備状況の進捗を踏まえつつ、PHR等を活用した健康相談を実施	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
PHRの活用等についての周知は、引き続きおこなっていく。 PHRを活用した健康相談の実施については利用環境などが整いきておらず利用にはつなげにくい現状。	①健診の受け方を説明した冊子において、マイナポータルに関する内容を記載し周知を図ることができた。②PHRを活用した相談の実施は1件と少なかった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
PHRの活用についての認知度	アンケートを実施し、質問「PHRの活用について知っている」と回答した人の割合	5	%	健康づくり課	3. 個人健康記録（PHR）を活用した健康相談
各年度の実績		65.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 マイナポータルカードの普及が進み、同カードに紐づけられるマイナポータルで健診や病院受診履歴などのPHRについて確認できることを知っていると回答した割合が6割を超えていた。知っていて使ったことがある割合は21.2%のため、引き続き周知していく。					
PHRを活用した健康相談件数	個人健康記録（PHR）を活用した健康相談件数	2	件	健康づくり課	3. 個人健康記録（PHR）を活用した健康相談
各年度の実績		1	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 健康相談の利用者は高齢者が多いため、PHRの活用までは至りにくい現状がある。PHRの活用についての周知は継続していく必要がある。					

4. 健康スポーツの普及

取り組みの内容	R6年度	担当課
市民のスポーツ振興を図り、健康増進や高齢者の介護予防の取り組みとして、地域展開における楽10体操やボディバランスチェック体験、朝活ストレッチなどの事業を実施。枚方市内の企業への健康経営の取り組みとしてオーダーメイドプログラム（健康パッケージ）を提供。	・高齢者向けのプログラムや、企業向けの健康経営プログラムなどの提供 ・健康スポーツ教室や健康経営セミナー等を実施（補助金交付）	スポーツ振興課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
プログラムの提供に加えて、健康経営への関心が高まっている企業への、職種や年代に応じたオーダーメイドプログラムの実施や相談が増えていることから、今後も、多様化するニーズに対応したプログラム等を提供に取り組んでいく。	・楽10体操やボディバランスチェック体験、朝活ストレッチなどの事業（全4事業）を実施した。 ・健康経営セミナーやオーダーメイドプログラム（115件）を提供した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
健康パッケージ提供数	スポーツ協会が市内企業へ提供したオーダーメイドプログラム（健康パッケージ）の提供数	47	件	スポーツ振興課	4. 健康スポーツの普及
各年度の実績		115	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 企業の健康経営の関心の高まりもあり、オーダーメイドプログラムの提供数が増加となった。					
健康スポーツイベント等の参加者数	補助事業で実施された各事業の参加者数	9,200	人	スポーツ振興課	4. 健康スポーツの普及
各年度の実績		11,707	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 大企業へのプログラム提供を行ったことにより、参加者数の大幅な増加となった。市民の健康意識の高まりや企業の健康経営への関心の高まりが参加者数の増加となった。					

5. 健康経営の促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
働く世代の健康増進を図るため、地域・職域連携推進の取り組み等により、健康経営（従業員の健康づくりの取組）を行う企業の増加を図るとともに、北大阪商工会議所等との連携のもと、健康経営を行う企業を支援。	①地域・職域連携推進連絡会の開催及び健康経営普及セミナー、企業交流会等の開催の継続実施 ②健康経営を行う企業の更なる推進及び相互支援のしくみづくりについて検討	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
健康経営に取り組む企業のさらなる増加に向け、引き続き関係機関・団体と協働で取り組んでいく	①地域・職域連携推進連絡会の開催、健康経営普及セミナー兼交流会を開催した ②関係機関・団体と連携し支援方法を検討した	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
従業員の健康づくりに取り組む企業数（累計）	①企業への支援数 ②協会けんぽへの「健康宣言」を提出する市内企業数（累計） ③市内の健康経営優良法人認定数	①3,600 ②165	①回 ②企業 ③企業	健康づくり課	5. 健康経営の促進
各年度の実績		①4,993 ②129	①回 ②企業 ③企業	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内企業が従業員の健康づくりに取り組みやすくなるよう、健康講座や情報提供などによる支援を行った。健康宣言を提出済の企業への取組支援は増加しているが、市内企業の健康経営に関する認識はまだ低く、健康宣言の提出数が増加しなかった。市内企業に向けたさらなる啓発が必要。					
①運動教室・企業対抗運動会参加者数 ②企業対抗運動会参加者の運動を始める（または継続する）きっかけになったと答えた割合 ③企業対抗運動会参加者の適正体重を維持している者の割合	①運動教室・企業対抗運動会の参加者の延べ人数 ②参加者のうち、アンケートにて、「運動を始める（または継続する）きっかけになった」と答えた割合 ③参加者のうち、適正体重を維持している者の割合	－	①人 ②％ ③％	健康づくり課	5. 健康経営の促進
各年度の実績		－	①人 ②％ ③％	備考	
【施策指標の分析 R6】 実施に向け、関係機関と調整を行った。					

6. 歯科口腔保健の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
成人期における歯周組織の健康の保持・増進、う蝕および喪失歯予防のため、20歳～70歳（5歳刻みの節目年齢）を対象に歯周病検診を実施。	・受診勧奨ハガキの送付や広報・SNSなどで広く周知 ・各種イベントなどでむし歯・歯周病予防について啓発 ・かかりつけ歯科医の重要性についての啓発	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
20～30歳代の受診者は少ないため、引き続き受診勧奨の工夫が必要	受診勧奨はがきの送付やSNS発信、各種イベントなどでの周知に取り組んだ	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
歯周病検診の要治療者の受診率	健診結果で要治療者（治療が必要な人）が、重症化予防のために治療を受けた人の割合。 【算出式：要治療者のうち受診した人数／要治療者数】	92	％	健康づくり課	6. 歯科口腔保健の推進
各年度の実績		86.37	％	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和5年度の歯周病検診受診者の要治療者のうち、受診した人の割合は86.37％であった。今後も受診状況の把握に努めていく。				前年度の受診者の状況を当該年度にかけて追跡し結果を算出するため、当該年度の実績として示している数値は、前年度受診者の実績となっている。	

7. 健康増進計画等の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
健康寿命の延伸に向けて、令和6年度を始期とする高齢者福祉・健康増進施策に係る計画に基づき、高齢者保健福祉と健康づくりに効果的に取り組むとともに、胎児期から高齢期に至るまで、生涯を経時的に捉えた健康づくり（ライフコースアプローチ）を進める。	・各種イベントでの測定会やSNS発信などを実施し、健康づくりの取り組みについて啓発 ・生涯を通じた健康づくりに取り組むための情報提供方法を検討	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
働く世代の健康づくりの取組が少ないことが課題。引き続きSNS等を活用し発信することや各種測定会などで啓発を行い、生涯を通じた健康づくりを推進していく。	SNS発信、イベント等での測定会・健康講座を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合	スマホアンケートにおいて、「朝食、昼食、夕食ごとに主食、主菜、副菜がそろっているか」について回答を得、「1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている」と回答した人の割合	58.7	%	健康づくり課	7. 健康増進計画等の推進
各年度の実績		59	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 SNS配信やリーフレットの配付、健康講座・イベント等にてバランスの良い食事と健康づくりの関連性について啓発した。					
適正体重を維持している人	スマホアンケートにおいて、BMIを算出し59歳以下はBMI18.5以上25未満、60歳以上はBMI20.1以上25未満の人の割合を合算して算出	64.1	%	健康づくり課	7. 健康増進計画等の推進
各年度の実績		64.9	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 適正体重に関して、コラムの配信や啓発グッズの配付を通して啓発したことで、割合が増えた。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
健康づくりに関する教室・講演会への参加者数	ウォーキングなど健康づくりに関する教室・講演会への参加者数	25,000	人	健康づくり課	-
各年度の実績		15,820	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ウォーキングイベントや健康講座を実施し、課題である働く世代の参加者数が増加した。食育カーニバルのWeb閲覧数が減少しており、目標値の達成に至らなかった。					
特定健康診査受診率	高齢者の医療の確保に関する法律に定める特定健康診査の受診者／対象者（国民健康保険に加入する40歳以上75歳未満の者）	35.0	%	健康づくり課	-
各年度の実績		35.0	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和5年度と比較し、受診率が1.2ポイント向上した。				当該年度の法定報告(受診率の確定)が行われるのは次年度の10月頃となるため、表記の数値は前年度の実績となっている。	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等	
週1日以上スポーツに取り組む成人の割合	アンケートにおける普段のスポーツの実施状況において	－	％	スポーツ振興課	枚方市スポーツ推進計画	
週3日以上スポーツに取り組む成人の割合	①「週に1～2日以上」と回答した割合 ②「週に3日以上」と回答した割合					
各年度の実績		－	％	備考		
【施策指標の分析 R6】 令和6年度は市民アンケートを実施していないため、指標の把握を行っていない。						

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
かかりつけ歯科医を有する人の割合	スマホアンケートにおいて、「かかりつけ歯科医がある」と回答した人の割合	77.1	%	健康づくり課	第2次枚方市歯科口腔保健計画
各年度の実績		89.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 スマホアンケートでは90%近くが、かかりつけ歯科医があると答えている。今後もアンケートを実施することでの啓発も行っていく。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
コンソーシアム連携事業への参加者数	健康・医療に関わる市内団体により構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の連携事業への参加者数（会議を除く研修会・講習会への参加者数）	12,000	人	健康福祉政策課	-
各年度の実績		15,865	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、多くの市民が参加する講演会・研修等が実施でき、参加者数も増加した。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

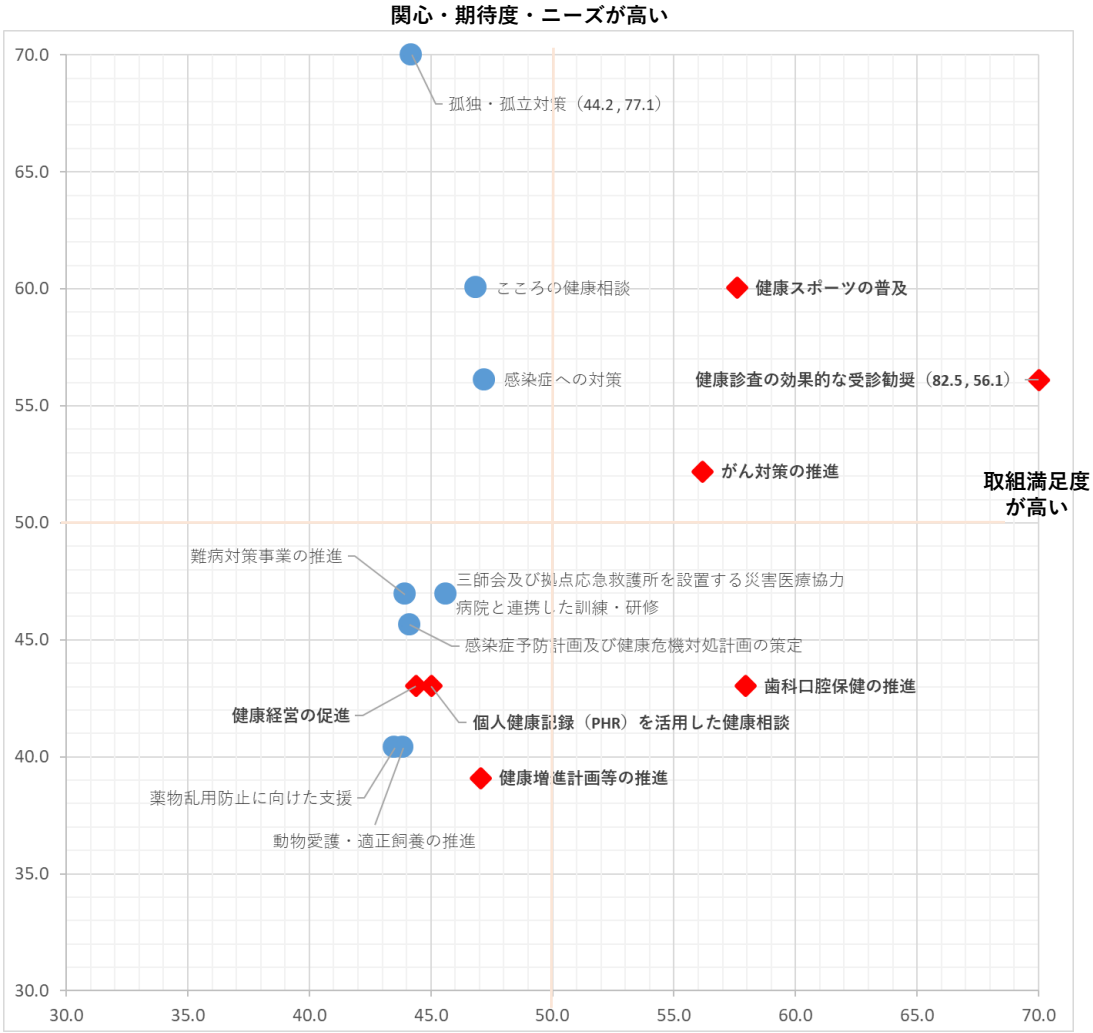
心身ともに健康に暮らせる
06_01 からだの健康の増進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
58.5%	10.0%	31.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
22.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『心身ともに健康に暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『06_01 からだの健康の増進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. がん対策の推進」、「2. 健康診査の効果的な受診勧奨」、「4. 健康スポーツの普及」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「6. 歯科口腔保健の推進」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは低い。
- ・「3. 個人健康記録 (PHR) を活用した健康相談」、「5. 健康経営の促進」、「7. 健康増進計画等の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、各種健診の受診率向上に向けた対象者への効果的な周知を図るとともに、スマホアンケートの結果を活用した各個人に適した情報提供により、特に働く世代に向けた取り組みを進めていく。

1. 施策の概要

施策シート[06_02]

健康福祉部、保健所

施策名称	こころの健康の維持・増進		
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち	
	施策目標等	6.誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち	
めざす姿（主観的満足度）	心身ともに健康に暮らせる環境が整っている		
概要	こころの病気の早期発見や早期対応に向けた取り組みを進める。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度
	R9年度		

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度58.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で73.2%、最も低いのが40歳台で49.2%である。
- ・健康状態がよいとした人の約8割が、また、趣味や生きがいがある人の約6割が心身ともに健康に暮らせる環境が整っていることに満足しており、健康状態や趣味等の有無が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.8ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「薬物乱用防止に向けた支援件数（累計）」、「福祉サービス検索システムを利用した人のうち、支援やサービスにつながった割合、及び問題解決に向かった割合」は目標を達成している。「こころの健康相談の相談件数」については、相談が必要な方に対し、夜間相談会をWEB申込にて実施したり、相談窓口や各種啓発・研修をSNSを活用して発信するなど、広く相談に関する情報を周知し相談を広げる工夫を重ねている。
- ・「自殺死亡率」は未達成であるが、その時々々の世相や社会情勢に深く影響を受けやすく、市町村における様々な自殺予防の取組のみで減少がみられるものではないことを踏まえて、取り組みを継続する。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. こころの健康相談

取り組みの内容	R6年度	担当課
うつ病などこころの病気について医療に係る相談を実施	電話および面接、訪問による相談支援	保健医療課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
精神疾患に係る個別相談やそれに付随して医療機関との連絡調整を実施した。	電話、面接、訪問を実施。日中に来庁することができない方に向け、夜間相談を実施。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
こころの健康相談の相談件数	うつ病などこころの病気について医療に係る相談を実施するこころの健康相談件数	5,000	件	保健医療課	1. こころの健康相談
各年度の実績		4,963	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 相談件数の減少を目指しているわけではなく、相談が必要な方を取りこぼさないようにする。日中に来庁できない方へWEBで申し込みを受付け、夜間帯に相談を実施する工夫をした。					

2. 薬物乱用防止に向けた支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
薬物乱用防止キャンペーンでの啓発資材の配布	市関連施設などにおいて、啓発資材を配布	保健医療課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
来年度も継続し、より効果的な啓発方法を模索していく。	市関連施設などにおいて、啓発資材を3200部配布した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
薬物乱用防止に向けた支援件数（累計）	薬物乱用防止キャンペーンでの啓発資材の配布数（累計）	16,000	件	保健医療課	2. 薬物乱用防止に向けた支援
各年度の実績		21,100	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 市関連施設のほか、枚方市保健所公衆衛生協会会員施設の協力があり、より多くの場所で啓発資材を配布することができた。					

3. 孤独・孤立対策

取り組みの内容	R6年度	担当課
日常生活もしくは社会生活において孤独を覚えることにより、心身に有害な影響を受けている状態にある者が必要とする支援を実施。	福祉サービス検索システムの運用開始	健康福祉総合相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
次年度も枚方市孤独・孤立対策推進本部・幹事会を開催するとともに研修を実施し、庁内理解を深めるとともに、福祉サービス検索システムの利用状況から新規施策の展開や既存事業の充実など取り組みを推進する。	R 6 年 4 月に福祉サービス検索システム「枚方市版お悩みハンドブック」の運用を開始した。また、当該システム等の利用者のうち、検索結果を確認・相談できた人の割合は69.8%で目標値の50%を上回る結果となった。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
福祉サービス検索システムを利用した人のうち、支援やサービスにつながった割合、及び問題解決に向かった割合	どこに相談したらよいのわからないなど、孤独・孤立の問題を抱える当事者や家族が、福祉サービス検索システムを利用した割合（システム等を利用した人の内、検索結果を確認したり相談できた人の割合）	50	%	健康福祉総合相談課	3. 孤独・孤立対策
各年度の実績		69.8	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 R 6 年 4 月開始直後はお試しの利用者が多かったため、実績が目標を上回った可能性があり、次年度については新規及び継続した利用に向け、関係機関等への周知に努めていく。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
自殺死亡率	人口10万人あたりの自殺者数	11	人／人口10万	保健医療課	枚方市のちを支える行動計画（自殺対策計画）
各年度の実績		13.7	人／人口10万	備考	
【施策指標の分析 R6】 職員向けゲートキーパー養成研修の開催回数を増やしたり、市民向けの心のサポーター養成研修を対面にて実施するなど、研修の開催方法を工夫した。また、いのちを支える相談窓口リーフレットを改訂したため、引き続き悩みを抱えた人が相談できる窓口について、周知啓発を行っていく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

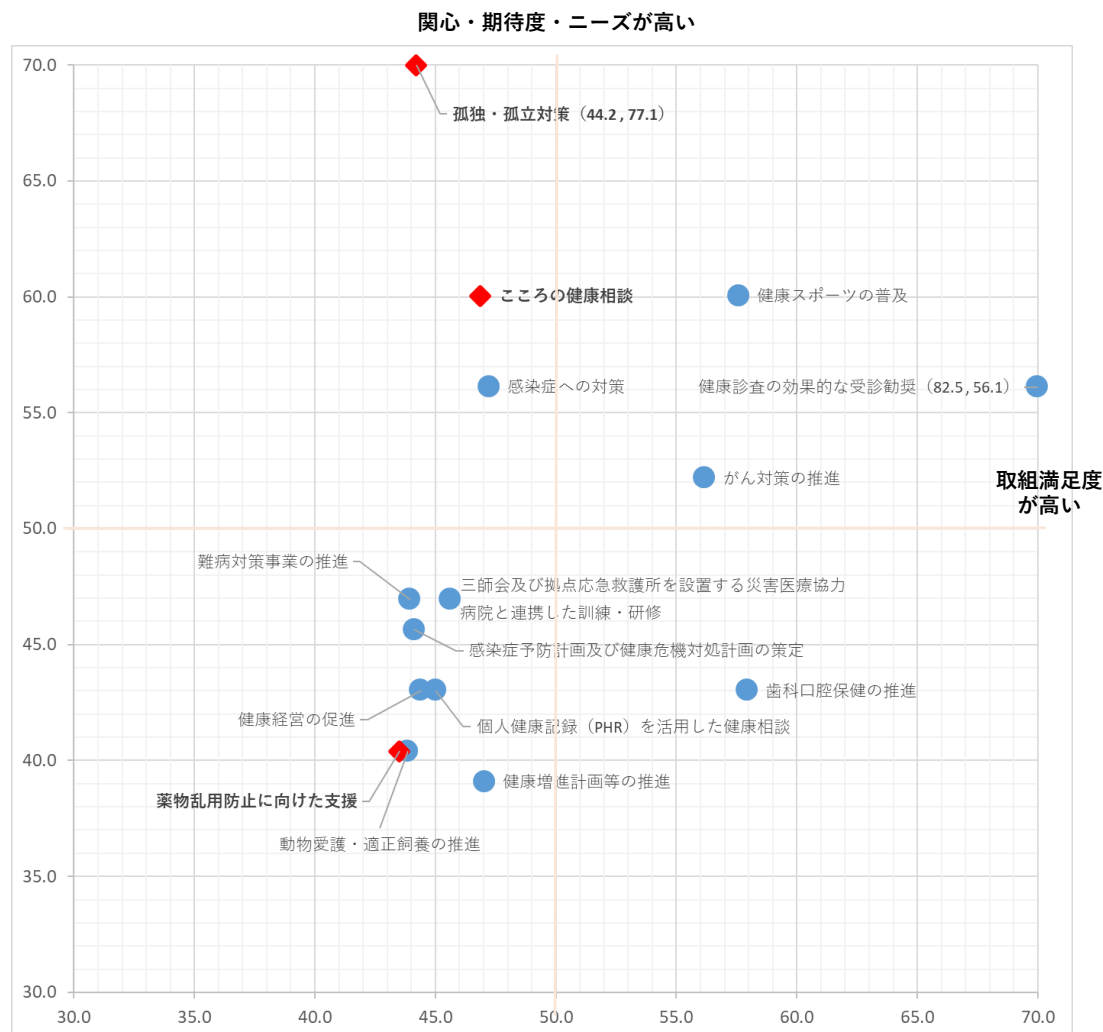
心身ともに健康に暮らせる
06_02 こころの健康の維持・増進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
58.5%	10.0%	31.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
22.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『心身ともに健康に暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『06_02 こころの健康の維持・増進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. こころの健康相談」、「3. 孤独・孤立対策」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は低い。
- ・「2. 薬物乱用防止に向けた支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

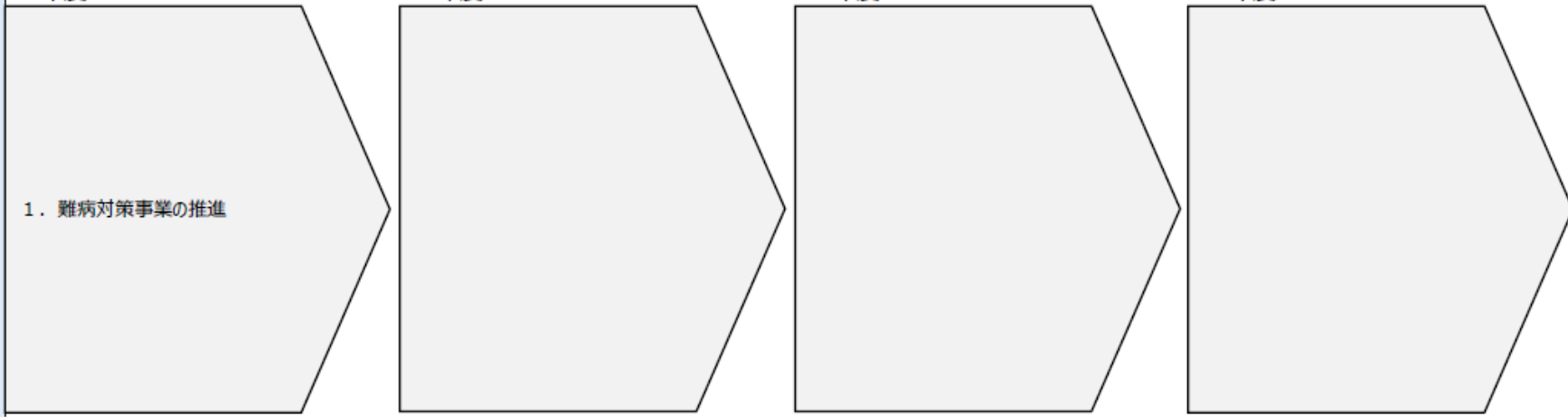
今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、日常生活等において孤独を覚えることで、心身に有害な影響を受けている状態の人が速やかに支援を受けることができるよう、引き続き、福祉サービス検索システムの関係機関等を含めた周知を進めていく。
- ・こころの健康相談など、自殺対策の取り組みのさらなる周知・啓発を行っていく。
- ・薬物乱用防止に向けた支援については、取組が成果に結びついていない現状を踏まえ、出前講座や若年層への啓発強化等、より効果的な方法を検討していく。

1. 施策の概要

施策シート【06_03】

保健所

施策名称		難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくり					
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち					
	施策目標等	6. 誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち					
めざす姿（主観的満足度）		心身ともに健康に暮らせる環境が整っている					
概要		難病に対する理解を深めるとともに、医療や介護、福祉の連携を図りながら、難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくりを進めます。					
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		R9年度	
							

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度58.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で73.2%、最も低いのが40歳台で49.2%である。
- ・健康状態がよいとした人の約8割が、また、趣味や生きがいがある人の約6割が心身ともに健康に暮らせる環境が整っていることに満足しており、健康状態や趣味等の有無が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.8ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「療養生活について相談できる人がいる、または困っていない」と回答した割合」と「指定難病医療費助成制度更新申請者の療養状況把握割合」について、共に未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 難病対策事業の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
①保健師による申請時面接や訪問、リハビリ専門職等による専門相談の実施 ②難病患者に対する講演会や相談会を実施 ③難病患者やその家族に対する、相談、指導、助言等を行う支援スタッフの育成 ④人工呼吸器を使用する在宅難病患者等へのレスパイト入院費用の助成 ⑤医療機関等とのネットワークを構築	①保健師の面接・訪問、専門相談の実施 ②難病患者に対する講演会や相談会の実施 ③関係機関向け研修会の実施 ④レスパイト入院費用の助成 ⑤難病ネットワーク部会実務者会議の開催	保健予防課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
人工呼吸器使用者等への災害時支援体制の構築に向け、引き続き訪問看護ステーション等の関係機関と連携して取り組みを進めていく。 レスパイト入院については、受け入れ先となる病院と連携し、利用に向けた支援を実施していく。	①新規・更新申請時に面接を実施し必要に応じ訪問等を実施。専門相談は年28回、働き方相談は年5回実施。 ②ALS患者の家族を対象に交流会を開催。 ③庁内関係課や訪問看護ステーションを対象に、災害時支援、コミュニケーション支援に関する研修会を開催。 ④対象者へ事業の周知を行い、申請者への費用助成を実施。 ⑤R7年2月難病ネットワーク部会実務者会議を開催し、子育て期のALS患者への支援等について、関係機関と意見交換を行った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「療養生活について相談できる人がいる、または困っていることがない」と回答した割合	難病患者更新受付時アンケートにて「療養生活について相談できる人がいる、または困っていることがない」と回答した割合	95以上	%	保健予防課	1. 難病対策事業の推進
各年度の実績		87.3	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 アンケート回収数3,059人のうち、「相談できる人がいる、または困っていることが無い」と答えた割合は2,670人であった。引き続き難病患者が安心して療養できるよう支援を継続していく。					
指定難病医療費助成制度更新申請者の療養状況把握割合	療養状況を把握できた者の数／指定難病医療費助成制度更新申請者数	100	%	保健予防課	1. 難病対策事業の推進
各年度の実績		82.7	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 更新申請者3,698人のうち、アンケート回収数は3,059人であった。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

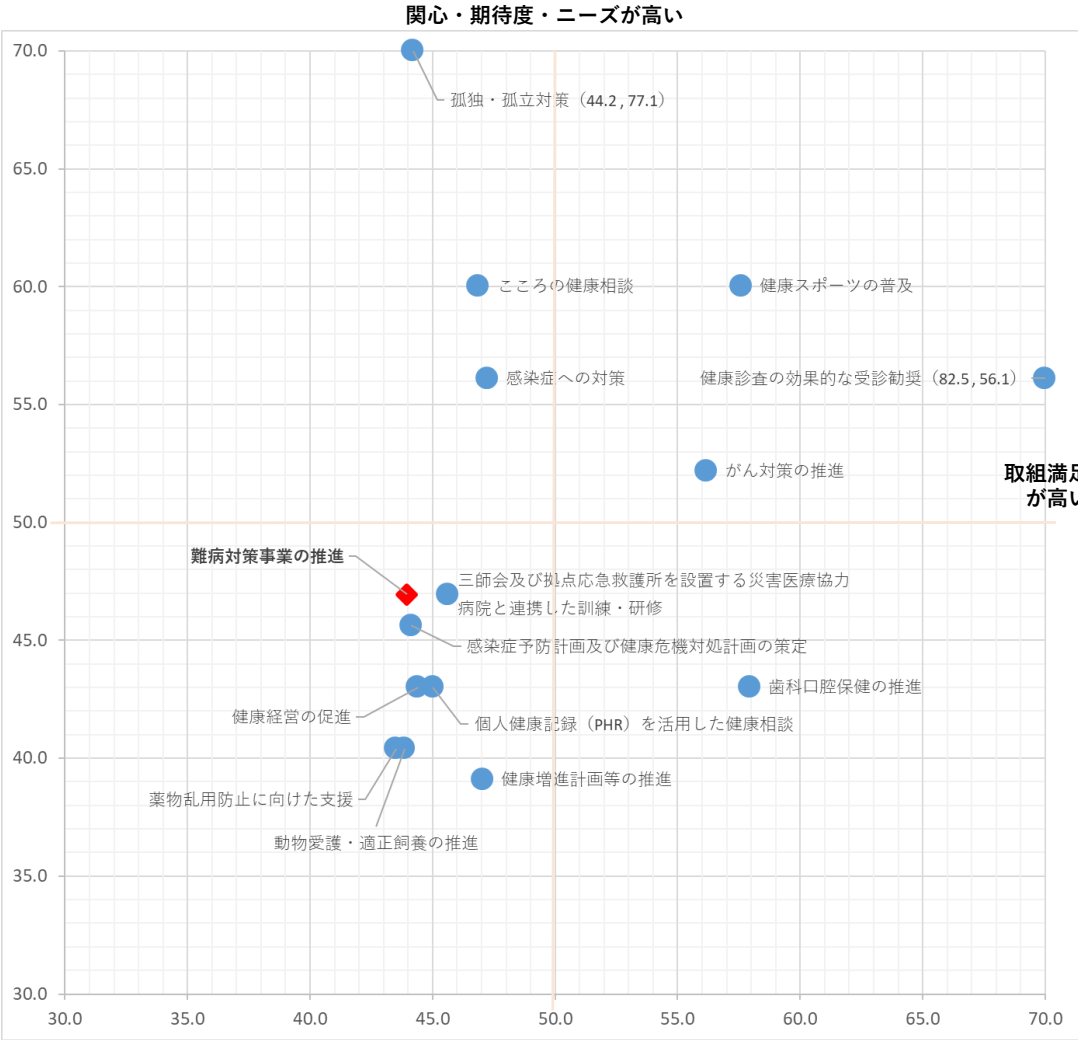
心身ともに健康に暮らせる
06_03 難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくり

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
58.5%	10.0%	31.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
22.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『心身ともに健康に暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『06_03 難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくり』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

・「1. 難病対策事業の推進」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

・施策の全体の方向性としては、引き続き、難病患者およびその家族が安心して暮らせるよう、リハビリ専門職等による専門相談の実施や家族に対する交流会や相談会の実施、レスパイト入院費用の助成など、医療機関等と連携しながら取り組んでいく。

1. 施策の概要

施策シート【07_01】

健康福祉部、保健所

施策名称		健康に関する危機管理体制の充実			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	7.公衆衛生や健康危機管理が充実したまち			
めざす姿（主観的満足度）		心身ともに健康に暮らせる環境が整っている			
概要		感染症の予防や拡大防止対策の強化、健康に関する危機管理体制の充実を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	1. 感染症への対策				
	2. 感染症予防計画及び健康危機 対処計画の策定				
	3. 三師会及び拠点応急救護所を 設置する災害医療協力病院と 連携した訓練・研修				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度58.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で73.2%、最も低いのが40歳台で49.2%である。
- ・健康状態がよいとした人の約8割が、また、趣味や生きがいがある人の約6割が心身ともに健康に暮らせる環境が整っていることに満足しており、健康状態や趣味等の有無が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.8ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「結核の罹患率」、「1歳までにBCG接種を終了している者の割合」が目標を達成している。「収去検査における違反・不適件数」、「MR1期（麻しん・風しん含む）の接種率」は未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 感染症への対策

取り組みの内容	R6年度	担当課
指定感染症（全数把握、定点把握）の発生情報の正確な把握と分析、その結果の迅速な提供・公開及び感染症についての正しい情報と知識を普及、適切な予防行動の確立	・結核のハイリスク層である高齢者へ向けた啓発を、関係機関との連携を図りながら実施。 ・事業連携協定に基づく塩野義製薬と連携協力した感染症対策。 ・ネットワーク会議等の機会を通じた医療機関との連携強化	保健予防課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・結核については、高齢者や外国人の罹患率が高いため、引き続き啓発に取り組む。 ・感染症ネットワーク会議において、研修会の開催や施設等への現地指導の取り組みを推進する。	・高齢者結核の啓発用ちらしを作成し、関係機関を対象にちらしの配布や健康教育を実施。 ・連携協定において抗菌薬の適正使用に関するリーフレットを作成。 ・感染症ネットワーク会議で医療機関等へ研修会を実施。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
結核の罹患率	1年間に新たに結核と診断された人数／総人口（人口10万対）	10以下	人	保健予防課	1. 感染症への対策
各年度の実績		8	人	備考	
新登録患者数が増加したため罹患率が上昇したが、低まん延の指標である10以下の数値は達成できた。今後も早期発見、早期治療により感染拡大しないよう医療機関等に結核に関する啓発を行っていく。					

2. 感染症予防計画及び健康危機対処計画の策定

取り組みの内容	R6年度	担当課
新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、感染症予防計画及び健康危機対処計画を令和5年度末に策定。令和6年度以降、当該計画に基づき、新興・再興感染症の対応をはじめ、災害が複合的に発生した場合にも対応できる管理体制を構築	・保健所の感染症有事体制に構成される人員等を対象に実践的訓練を実施 ・会議や研修・訓練等の機会を通じ、関係機関との情報共有や連携体制を強化	健康福祉政策課、保健医療課、保健予防課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
新興感染症の発生時の医療提供体制確保のため、令和7年度は、感染症指定医療機関である市立ひらかた病院と、新型インフルエンザ等の新興感染症を想定した患者搬送訓練を実施する。	・保健所職員に対する個人防護服着脱訓練、庁内保健師に対する積極的疫学調査研修を実施した。 ・枚方市感染症ネットワーク会議において、市内病院等を対象に研修会を開催し、また、感染症対応力向上のための連携体制を強化した。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

3. 三師会及び拠点応急救護所を設置する災害医療協力病院と連携した訓練・研修

取り組みの内容	R6年度	担当課
災害医療体制の整備、医療連携の強化	災害医療対策会議連携訓練を実施	健康福祉政策課、保健医療課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
災害時における医療救護体制の強化を図るため、継続して災害医療対策会議により災害医療等を検討するとともに、拠点応急救護所設営訓練等を行っていく。	災害医療対策会議連携訓練を実施するなど、災害医療体制の整備、医療連携の強化を推進	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
1歳までにBCG接種を終了している者の割合	結核を予防するBCGワクチンを1歳までに接種した児の数／0歳の人口	95.0	%	保健予防課	-
各年度の実績		96.9	%	備考	
適切に疾病を予防し、公衆衛生の向上・健康増進が図られるよう予防接種事業を実施することができた。					
収去検査における違反・不適件数	食品衛生及び生活衛生に関する立入・収去検査において違反・不適であった件数	0	件	保健衛生課	-
各年度の実績		2	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 食品衛生については、令和6年度枚方市食品衛生監視指導計画に基づき立入・収去検査を実施し、違反・不適はなかった。生活衛生については、令和6年度家庭用品試買調査において違反が1件、及び遊泳場におけるレジオネラ検査において違反が1件あった。					
MR1期（麻しん・風しん含む）の接種率	対象者が定期A類予防接種を受ける 【算出式：接種者数／対象者数】	95	%	保健予防課	-
各年度の実績		89.8	%	備考	
適切に疾病を予防し、公衆衛生の向上・健康増進が図られるよう予防接種事業を一定実施することができたが、さらなる接種率の向上に向け、積極勧奨・啓発を続ける。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

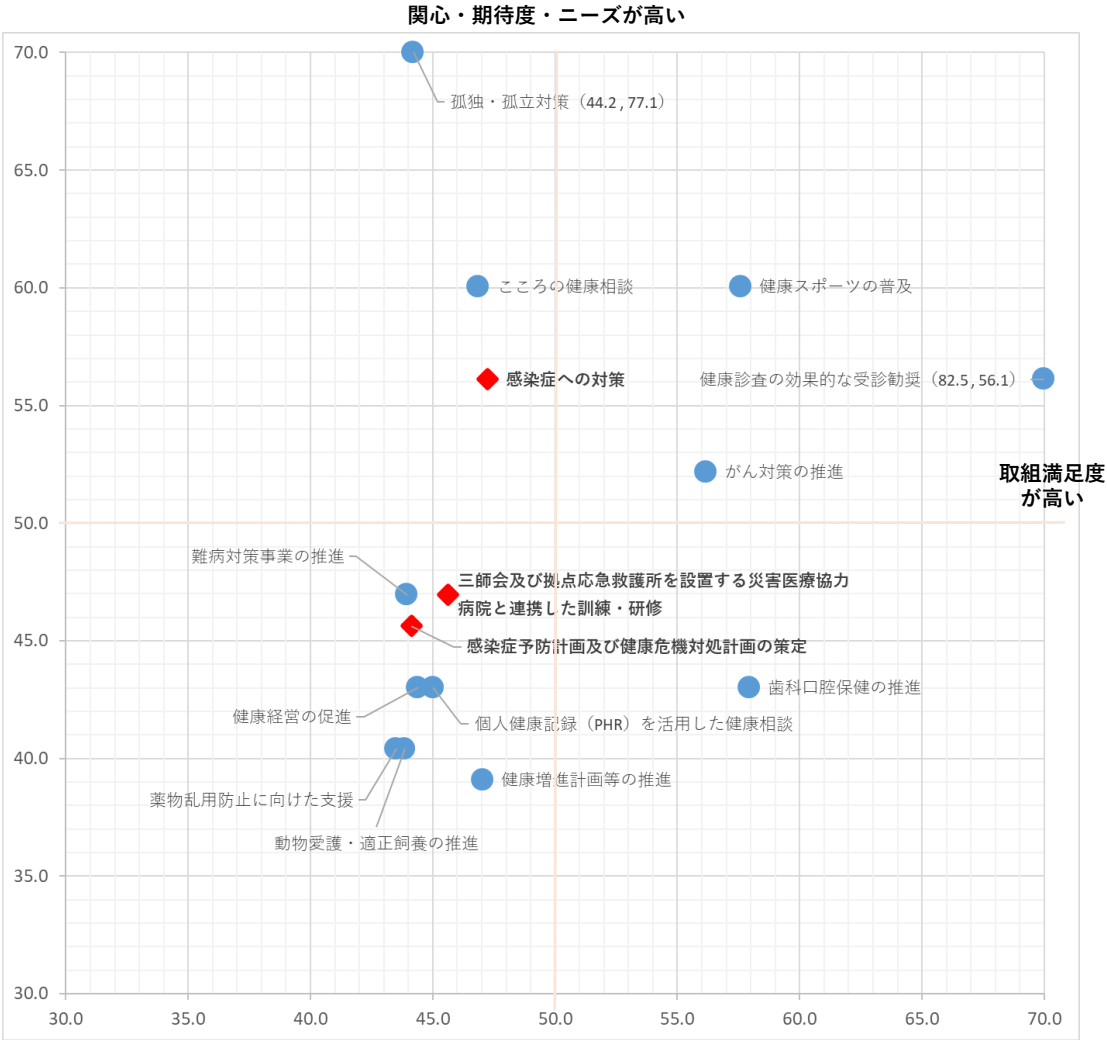
心身ともに健康に暮らせる
07_01 健康に関する危機管理体制
の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
58.5%	10.0%	31.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
22.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『心身ともに健康に暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『07_01 健康に関する危機管理体制の充実』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 感染症への対策」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「2. 感染症予防計画及び健康危機対処計画の策定」、「3. 三師会及び拠点応急救護所を設置する災害医療協力病院と連携した訓練・研修」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。

4. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続きワクチンの接種率の維持・向上等により、感染症のまん延を予防するとともに、市民が感染症とその予防策に関する正しい知識や情報を取得できるよう、情報の発信や啓発に取り組む。
- ・新興感染症の発生時における医療提供体制確保のため、医療機関との連携を強化し、また、感染症指定医療機関である市立ひらかた病院と、患者搬送等の実践的な訓練に取り組む。

1. 施策の概要

施策シート【07_02】

保健所

施策名称	人と動物の共生			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち		
	施策目標等	7.公衆衛生や健康危機管理が充実したまち		
めざす姿（主観的満足度）	心身ともに健康に暮らせる環境が整っている			
概要	人と動物の共生を推進するため、動物の愛護・適正飼養の推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	1. 動物愛護・適正飼養の推進			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度58.5%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で73.2%、最も低いのが40歳台で49.2%である。
- ・健康状態がよいとした人の約8割が、また、趣味や生きがいがある人の約6割が心身ともに健康に暮らせる環境が整っていることに満足しており、健康状態や趣味等の有無が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.8ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、計画通りに進めることができています。

【施策指標】

- ・指標については、目標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 動物愛護・適正飼養の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
殺処分ゼロを継続するための適正飼養の啓発・指導、捕獲・収容またはやむを得ず飼い主から引き取った犬・猫の譲渡の促進	犬猫の収容等と譲渡を行うとともに、イベントや講習会の開催による適正飼養啓発、飼主への飼い方指導、猫不妊手術費補助金の交付により適正飼養を推進。	保健衛生課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
動物愛護・適正飼養啓発をさらに推進するため従来の取組の改良および新たな取組の検討が必要。	新たな取組として、高齢者向けの啓発チラシの配布と、適正飼養啓発のポケットティッシュの配布を行った。また譲渡促進のため、遠方で飼養管理している譲渡動物を保健所で見られるようにタブレットを導入した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
犬猫の譲渡・返還数割合	負傷(幼弱子猫含む)、飼い主からの引き取り、及び捕獲により収容等された犬猫のうち、譲渡・返還された割合。	75	%	保健衛生課	1. 動物愛護・適正飼養の推進
各年度の実績		80.8	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度は猫の譲渡が進んだため目標値を上回った。今後も譲渡が進むよう動物愛護・適正飼養啓発等に取り組んでいく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

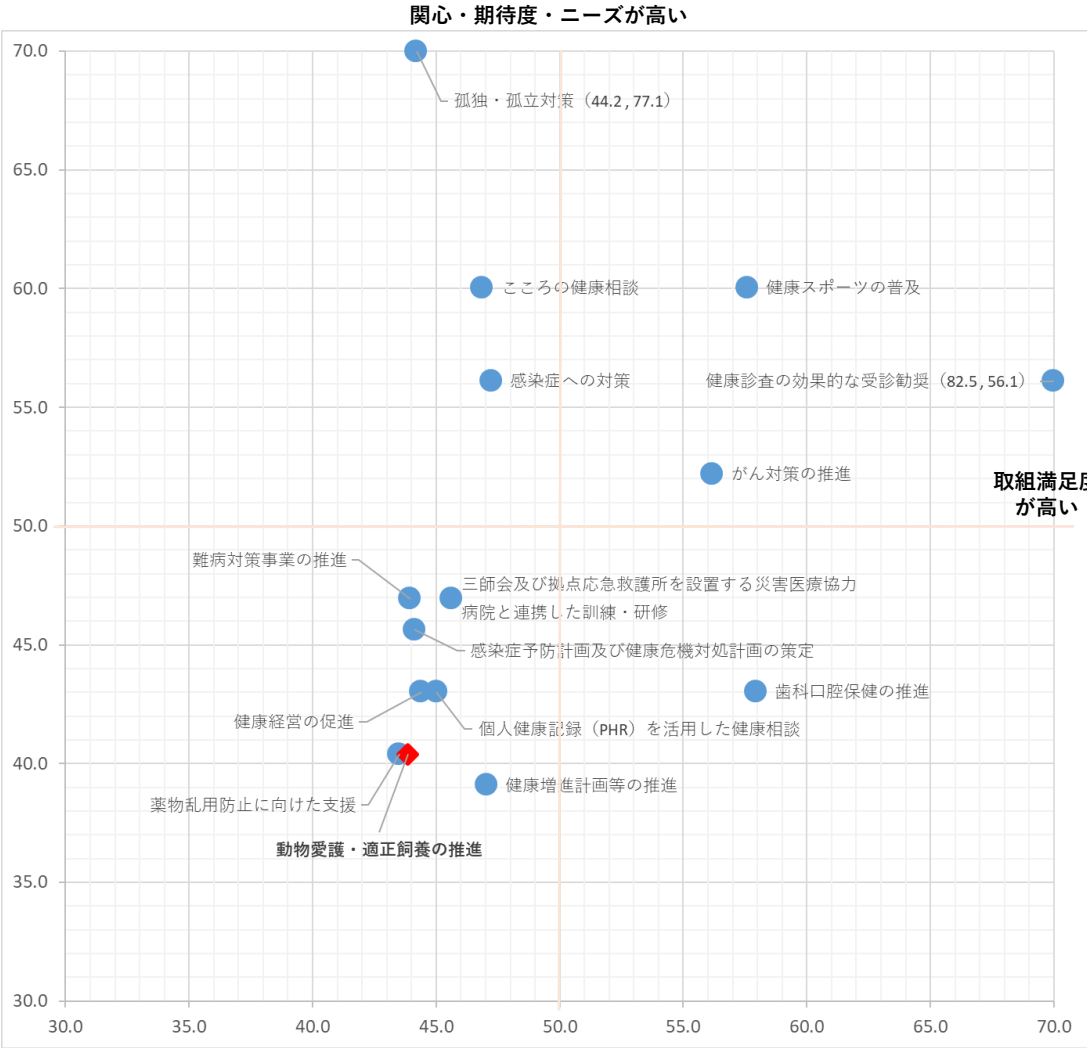
心身ともに健康に暮らせる
07_02 人と動物の共生

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
58.5%	10.0%	31.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
22.9%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『心身ともに健康に暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『07_02 人と動物の共生』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- 「1. 動物愛護・適正飼養の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、趣味や生きがいにつながる取り組みでもあることから、引き続き啓発活動のさらなる推進に向け、従来の取り組みの改良および新たな取り組みの検討を進める。

1. 施策の概要

施策シート【08_01】

健康福祉部、福祉事務所

施策名称		医療体制の充実			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	8. 安心して適切な医療が受けられるまち			
めざす姿（主観的満足度）		安心して適切な医療が受けられる環境が整っている			
概要		誰もが安心して医療を受けられるよう、地域医療の充実を図ります。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度	R9年度
	1. 医療通訳士の登録派遣 2. 手話通訳者の派遣				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度54.6%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で75%、最も低いのが80歳以上で45.6%である。
- ・健康状態がよいとした人から順に、まあよい、ふつう、あまりよくない、よくないと満足度が低いことから、健康状態が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.2ポイント減少した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、「コンソーシアム連携事業への参加者数」が目標を達成している。「地域医療機関から市立病院への紹介件数」、「北河内こども夜間救急センターから二次医療機関に後送した患者の入院率」、「医療通訳士の利用件数」、「医療機関への手話通訳者の派遣件数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 医療通訳士の登録派遣

取り組みの内容	R6年度	担当課
日本語を話せない外国人住民等が、安心して市内の医療機関を利用できるとともに、コミュニケーションギャップに起因する医師の負担や診療上のリスクを軽減できるよう医療通訳士の養成と、医療機関への派遣を行う。	医療通訳士（医療通訳ボランティア）を派遣	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
コロナ禍以降、依頼件数が減少傾向にあるため、今後も引き続き動向を分析する。	医療通訳士の派遣依頼に対して388件の派遣を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
医療通訳士の利用件数	外国人住民等が市内対象医療機関を受診する際の医療通訳士の利用件数	500	件	健康福祉政策課	1. 医療通訳士の登録派遣
各年度の実績		388	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 依頼に対する派遣は問題なく実施できたが、コロナ禍以降、依頼件数が減少傾向にあるため、今後も引き続き動向を分析する必要がある。					

2. 手話通訳者の派遣

取り組みの内容	R6年度	担当課
手話通訳が必要な市内の聴覚障害のある方に手話通訳者の派遣を行う事業	手話通訳者を派遣	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
遠隔手話通訳サービスの制度もあるため目標件数としては下回っている。引き続き事業を実施していく。	手話通訳者の派遣を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
医療機関への手話通訳者の派遣件数	聴覚に障害のある方が医療機関を利用する際の手話通訳者の派遣件数	1,317	人	障害企画課	2. 手話通訳者の派遣
各年度の実績		799	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 遠隔手話通訳サービスの制度もあるため目標件数としては下回っている。引き続き事業を実施していく。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地域医療機関から市立病院への紹介件数	地域医療機関からの市立病院への患者の紹介件数	9,850	件	医事課	-
各年度の実績		9,688	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 コロナ渦の影響で来院を控えた患者等の紹介件数が増えたことなどにより、目標程度の件数となった。 コロナ患者以外での更なる紹介件数の増加を図るため、引き続き地域の医療機関に「地域医療連携システム」の周知を行う。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
北河内こども夜間救急センターから二次医療機関に後送した患者の入院率	北河内こども夜間救急センターから二次医療機関に後送し入院に至った患者数／後送された患者数	80.0	%	健康福祉政策課	-
各年度の実績		75.53	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標値を下回ったが、夜間の小児救急医療体制の確保に資することができたといえる。今後も適切な診断をするよう努める。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
コンソーシアム連携事業への参加者数（再掲）	健康・医療に関わる市内団体により構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の連携事業への参加者数（会議を除く研修会・講習会への参加者数）	12,000	人	健康福祉政策課	-
各年度の実績		15,865	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、多くの市民が参加する講演会・研修等が実施でき、参加者数も増加した。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

安心して適切な医療が受けられる
08_01 医療体制の充実

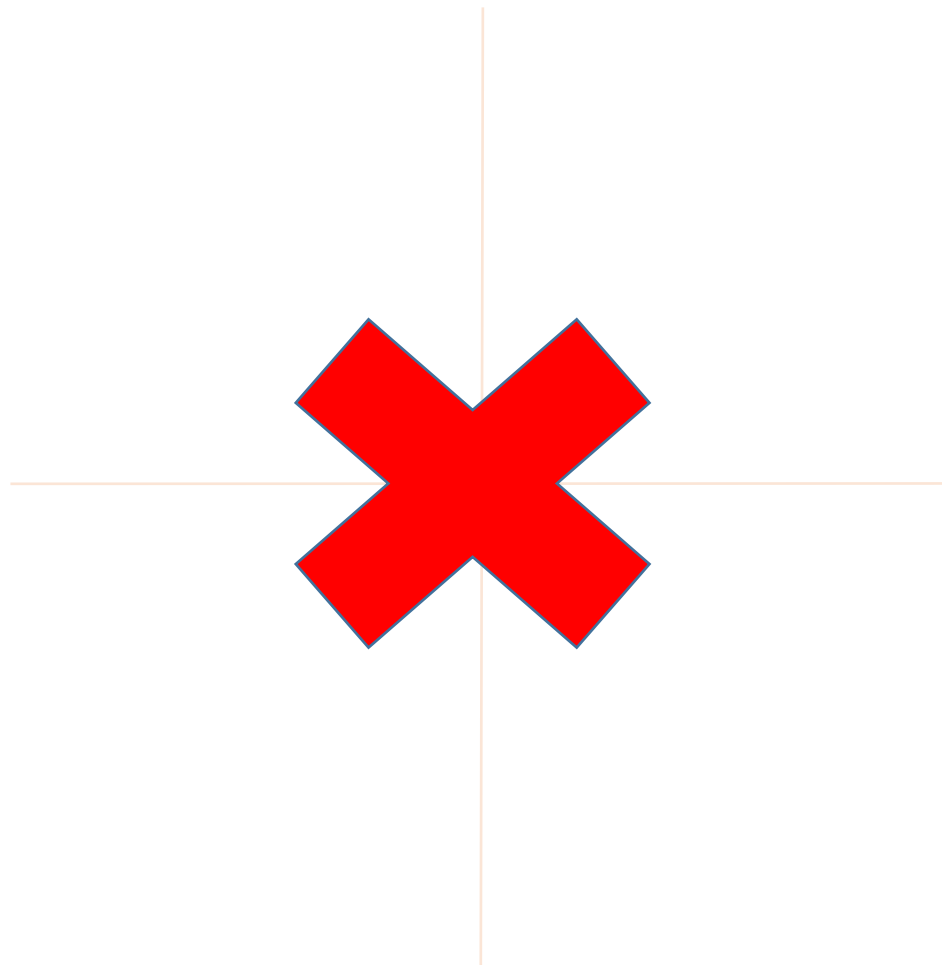
施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
54.6%	8.7%	36.7%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
81.5%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人

不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



取組満足度
が高い

施策の分析

※取り組みが2つのためマトリクス分析不可

- ・医療通訳士の登録派遣
- ・手話通訳者の派遣

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策全体の方向性としては、引き続き動向を分析し、その結果をもとに必要な対応に取り組む。

1. 施策の概要

施策シート[09_01]

健康福祉部、市民生活部、環境部

施策名称		高齢者が地域で安心して暮らせる環境づくり			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			
めざす姿（主観的満足度）		高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		認知症予防の推進や相談体制の充実、住み慣れた地域で医療・介護が受けられる体制づくりを進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. ごみ出し支援の拡充				
	2. 認知症対策				
	（1）認知症サポーターの養成				
	（2）予防及び早期発見				
R7年度	（3）患者及び家族の負担軽減				
	（4）認知症対策（脳の健康度測定）				
	（5）認知症対策（加齢性難聴に対する支援）				
	3. 在宅福祉サービスの充実				
R8年度	3. 在宅福祉サービスの充実				
	○新たな緊急通報装置導入				
R9年度	2. 認知症対策				
	（3）患者及び家族の負担軽減				
	【拡充】				
	○一体的支援事業を行う団体に				
	対する補助を実施（6団体）				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.8%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で48.8%、最も低いのが40歳台で32.2%である。
- ・健康状態がよいとした人から順に、まあよい、ふつう、あまりよくない、よくないと低いことから、健康状態が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・住居形態のうち、その他を除き、家族（自身含む）の介護を選択した人の満足度が最も低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・「3. 在宅福祉サービスの充実」において一部未達成であるものの、それ以外の取り組みについては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「介護保険施設等の施設数」、「認知症サポーター養成講座の参加者数（累計）」、「「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」の利用件数（累計）」、「認知症理解に関して働きかけた店舗等(企業等)数」、「補聴器購入費申請件数」は、目標を達成している。「介護保険給付に占める在宅サービスの割合」、「「ひらかた脳活教室」の参加者実人数」、「地域ケア推進実務者連絡協議会の開催件数」は、未達成だが、目標には近づいている。「一体的支援事業補助事業申請団体数」、「脳の健康度測定者数」は、未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. ごみ出し支援の拡充

取り組みの内容	R6年度	担当課
ごみ出し支援である「ふれあいサポート収集」及び「大型ごみ持出しサポート収集」の利用要件を令和5年度に拡充したが、より市民ニーズに対応していくため、さらなる拡充を図る。 令和5年度の拡充内容 「ふれあいサポート収集」：対象要件を高齢者、障害者の単身世帯としていたが、単身世帯の要件を撤廃。（高齢者、障害者等で複数人世帯を対象に拡充。） 「大型ごみ持出しサポート収集」：対象とする世帯の構成を、高齢者、障害者に加えて、既存対象者と同一世帯に属する18歳未満の者を追加するとともに、大型ごみと同時に排出する場合に限り粗ごみも収集品目の対象に追加。	大型ごみ持出しサポート収集の利用要件拡充の検討（出産や骨折等の傷病を理由とした一時的なごみ排出困難者への対応検討）	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
「ふれあいサポート収集」、「大型ごみ持出しサポート収集」事業について、対象者の拡充に向けて、調査・研究を行う	「大型ごみ持出しサポート収集」について、調査・検討を行い、令和7年4月から「妊産婦」「骨折等の傷病」により一時的にごみの搬出が困難な方も対象となるよう要件の拡充に向けて整理を図った。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

2. (1) 認知症対策（認知症サポーターの養成）

取り組みの内容	R6年度	担当課
認知症を正しく理解し見守るサポーターを養成。	認知症サポーター養成講座を開催	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市主催の講座について、以前はラポールひらかたのみで開催していたが、より身近な地域で参加していただけるよう、令和5年度より生涯学習市民センターでも開催している。引き続き、各地で開催する。	市主催による講座をラポールひらかたや生涯学習市民センターで5回開催したほか、キャラバン・メイトが地域等で講座を開催した。（参加者数1,328人）	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
認知症サポーター養成講座の参加者数（累計）	認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法を学ぶ認知症サポーター養成講座の参加者数（累計）	29,200	人	健康福祉政策課	2. (1) 認知症対策（認知症サポーターの養成）
各年度の実績		30,039	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 市主催による講座を5回開催したほか、キャラバン・メイトが地域等で講座を開催し、令和6年度は1,328人（令和7年3月末時点見込み）の参加があった。					

2.（2）認知症対策（予防及び早期発見）

取り組みの内容	R6年度	担当課
・専門職が地域の取り組みの活動支援を行い、認知症を含めたフレイル予防を展開（ポビュレーションアプローチ）。本市独自のプログラムを使用した教室等を実施（ハリスケアアプローチ）。 ・認知症の早期発見・早期治療の契機として、「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」を活用。 ・認知症の人とその家族への適切な支援につなげるため、発症初期の段階で医療と介護の専門職によるチームが介入。	・「ひらかた脳活教室」等による切れ目のないつながりをもった取り組みを実施 ・検討した「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」の啓発活動の実施 ・認知症初期集中支援チームを8回発動し、専門職によるチーム支援を実施。	健康づくり課、健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・ひらかた脳活教室において、申込数の定員割れが生じていたため、申込方法を増やし、より多くの方が参加申込をしやすいように事業展開を行う。 ・「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」が掲載されている認知症ケアパスの配布を進めることと認知症の早期対応の啓発を引き続き行う。 ・認知症の人とその家族への適切な支援につなげるため、認知症初期集中支援チームの啓発を引き続き行う。	・枚方市を北部、中部、南部、東部の4ブロックに分け各ブロックの生涯学習市民センターで認知症予防の連続講座を開催し、91名の方が参加した。 ・「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」が掲載されたチラシを作成し、脳の健康度測定事業において対象者約13,000人に配布し、集団測定会の測定者には必須でチェックすることとした。 ・作成した初期集中支援チームの啓発資料による啓発を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
「ひらかた脳活教室」の参加者実人数	「ひらかた脳活教室」の参加者実人数	100	人	健康づくり課	2.（2）認知症対策（予防及び早期発見）
各年度の実績		91	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内全域での実施を目指し、4つの生涯学習市民センター等で実施したが、地域によっては通いにくさが影響したのか定員割れとなる場所もあった。また、申込方法に関しても往復はがきに限定していたことも影響していると考えられる。令和7年度からは申込方法を往復はがきから、Logoフォームや電話、FAXに変更し申込方法の幅を広げて対応するとともに、より参加しやすい場所での開催を検討する。					
「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」の利用件数（累計）	「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」啓発の結果、チェックリストが行われた数	1,500	件	健康福祉政策課	2.（2）認知症対策（予防及び早期発見）
各年度の実績		3,593	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」については、ロゴフォームにて公開しており、誰もが容易にチェックできるようにしている。また、今年度より開始された「脳の健康度測定事業」における集団測定会においても、測定者はチェックリストを行うようにしており、実績値はその合計である。 引き継ぎ、チェックリストを活用し認知症の早期発見・早期治療の普及啓発を進めている。					

2.（3）認知症対策（患者及び家族の負担軽減）

取り組みの内容	R6年度	担当課
本人と家族の関わり方を一体的に支援する団体に対して、運営に必要な費用の一部を補助。認知症の本人やその家族にとって安心して店舗やサービスを利用できる環境を推進。	・一体的支援事業を行う団体に対する補助を実施（3団体） ・「認知症バリアフリー宣言」の推進	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
本人と家族への一体的な支援については、実施団体が運営している認知症カフェを活用して支援を行っている実態を踏まえ、引き継ぎ支援を行っていく。 企業や団体の取組を推進し、認知症バリアフリー社会の機運を醸成する。引き続き、ホームページの掲載やSNSの発信等で普及啓発に取り組む。	・一体的支援事業を行う団体に対する補助を実施（0団体） ・管内の企業が基本法の趣旨を踏まえ、認知症の人や家族等への理解を深めるための勉強会（健康づくり課所管）を開催した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
一体的支援事業補助事業申請団体数	認知症一体的支援事業に取り組む団体に対して行う補助金事業の利用件数	3	件	健康福祉政策課	2.（3）認知症対策（患者及び家族の負担軽減）
各年度の実績		0	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 認知症一体的支援事業の登録団体は2団体となっている。制度の周知はしているものの申請はされていない状況である。引き継ぎ、周知等を行い申請があれば適切に補助金交付に向けた手続きを進める。					
認知症理解に関して働きかけた店舗等（企業等）数	「認知症バリアフリー宣言」など認知症理解に関する周知を行った件数	3	件	健康福祉政策課	2.（3）認知症対策（患者及び家族の負担軽減）
各年度の実績		3	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 管内の企業が基本法の趣旨を踏まえ、認知症の人や家族等への理解を深めるための勉強会（健康づくり課所管）を開催し、その中で周知を図った。					

2.（4）認知症対策（脳の健康度測定）

取り組みの内容	R6年度	担当課
デジタル技術を活用した脳の健康度測定を実施し、自身の脳の健康に関心をもつきっかけづくりとともに、認知機能低下が疑われる方を把握し、介護予防事業への案内や地域・医療資源等へつなぐことにより、認知症及び軽度の認知機能障害の予防、早期対応を推進。	・二次元コードの郵送による個別測定の実施 ・集団測定の実施 ・結果分析	健康福祉政策課、健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
脳の健康度測定をきっかけとした啓発活動を進めるとともに、実施された方に対し、介護予防事業への案内等を行う、	・郵送による個別測定では約1,500人が実施。 ・集団測定では約400人が実施。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
脳の健康度測定者数	①セルフチェック（対象者の15%から＋1%/年） ②集団測定（定員の100%）	①2,025人 ②500人	件	健康福祉政策課	2.（4）認知症対策（脳の健康度測定）
各年度の実績		①1,531人 ②418人	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 セルフチェックについては、対象者12,742人に対し、12.0%の実績値となった。集団測定会については、定員500名に対し462名の事前申込があり全員が測定可能となったものの、キャンセルにより実績値は定員に対し83.6%となっている。広報ひらかたやホームページ、SNS発信、公共施設へのチラシの配架および部内のイベントにて声掛けは行っているものの、目標値に達していない状況である。今後実施するにあたっては、セルフチェックや集団測定会の時期や期間を検討する必要がある。					

2.（5）認知症対策（加齢性難聴に対する支援）

取り組みの内容	R6年度	担当課
高齢者の認知症予防や日常生活の質の向上を図るため、加齢に伴う難聴について、補聴器の購入を補助。	・補助金要綱確定 ・購入費補助の実施 令和6年10月から事業開始	健康福祉総合相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和6年度予定していた申請数よりも申請数が増加した。次年度も申請数の増加が見込まれることから、予算確保が必要。	令和6年10月から事業開始。補聴器購入費を45件補助。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
補聴器購入費申請件数	補聴器購入費助成制度利用申請件数	30	件	健康福祉総合相談課	2.（5）認知症対策（加齢性難聴に対する支援）
各年度の実績		45	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 想定数を上回る申請数があり、次年度以降の申請見込みについても、上方修正が必要。					

3.在宅福祉サービスの充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
ひとり暮らし等で身体に負担のある高齢者の居宅に緊急通報装置を設置し、急病などに対する緊急時の対応や、日常時の健康相談に応じ、不安感の解消を図っている。 現在の装置は固定電話回線に接続しているが、固定電話回線の廃止やI P電話等で装置が設置できない高齢者への対策を検討する。	緊急通報装置の在り方について検討	健康福祉総合相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
電話を活用した見守りサービスに加え、新たな手法を導入した他市事例など情報収集を行ったほか、昨年度実証実験をしたスマホ等を使ったサービスの導入についても検討を行った。また地域福祉推進基金が、令和7年度分で財源が枯渇することからも、令和8年度以降の一般財源の活用を含めた財源の検討もあわせて行っていく。	今後の事業検討スケジュールを決定し、令和7年度中に新たな見守りサービスの内容決定、令和8年度から新たなサービスを実施。	
年度ごとの達成状況	○	

※関連指標なし

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
介護保険給付に占める在宅サービスの割合	居宅サービス及び地域密着型サービス給付費合計／介護保険給付費	73.0	%	保険年金課	-
各年度の実績		71.9	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 第9期計画においても、在宅介護の限界点を引き上げるのに有効なサービスとして、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の整備を見込んでおり、目標達成に向けて取り組んでいく。					
介護保険施設等の施設数	特別養護老人ホームなど介護保険施設等の数	102	施設	健康福祉政策課	-
各年度の実績		102	施設	備考	
【施策指標の分析 R6】 第8期介護保険事業計画（R3～R5）において見込んだ施設のうち、令和6年度に地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者グループホーム各1施設開設し、指標通りの実績となった。 令和6年3月に策定した第9期計画では、新たに介護医療院1か所、地域密着型特養1か所、小規模多機能型居宅介護1か所、看護小規模多機能型居宅介護1か所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護2か所の計6か所の施設整備を計画しており、令和8年度の目標達成に向けて取り組んでいく。					
地域ケア推進実務者連絡協議会の開催件数	地域ケア推進実務者連絡協議会、作業部会の開催件数	14	件	健康づくり課 健康福祉政策課	-
各年度の実績		13	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 多職種連携研究会12回、地域ケア推進実務者連絡協議会1回を実施した。 認知症初期集中検討部会については、日程調整が困難なため令和7年度早々に開催することとし、令和6年度は実績なし。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

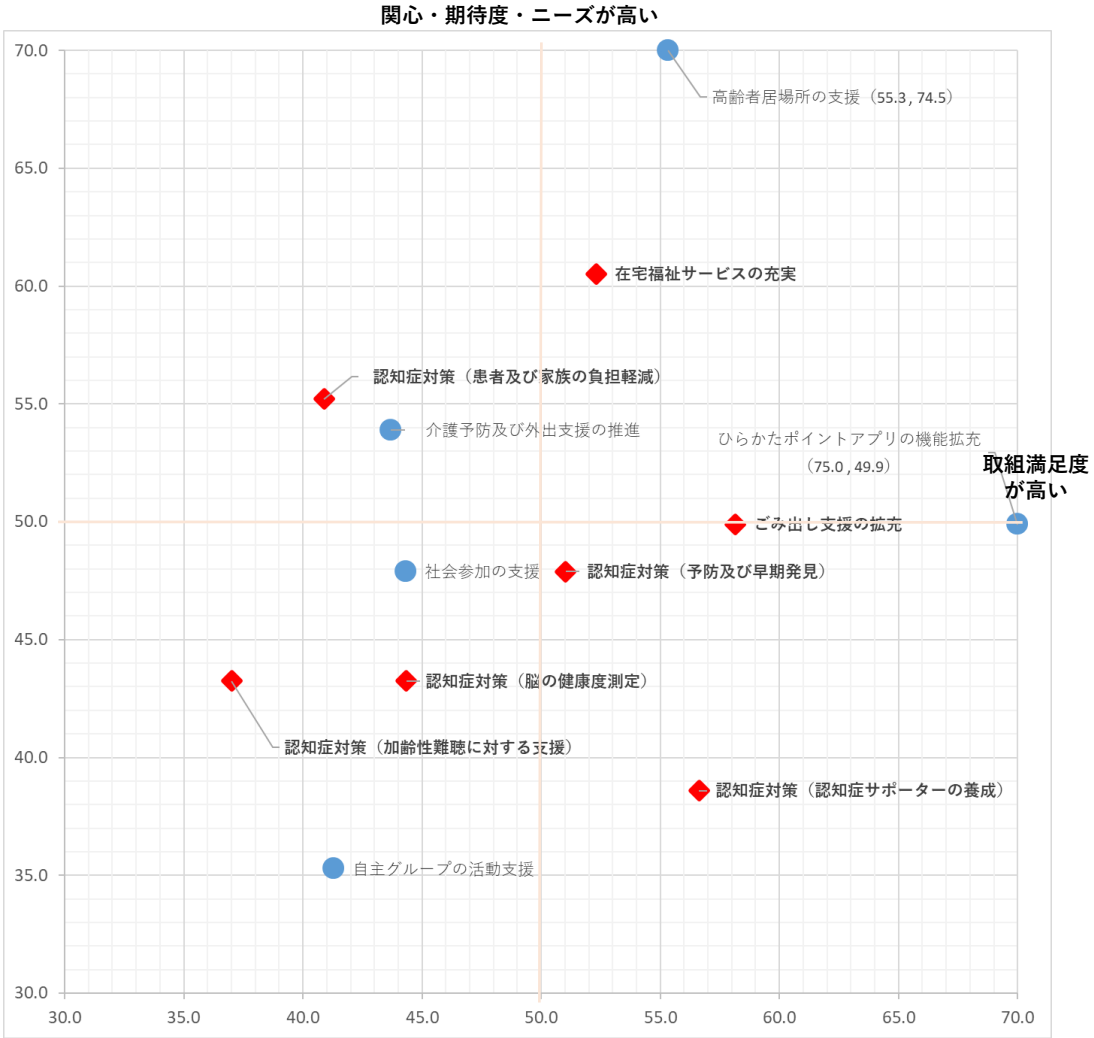
高齢者が地域でいきいきと暮らせる
09_01 高齢者が地域で安心して
暮らせる環境づくり

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.8%	16.7%	44.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
33.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『高齢者
が地域でいき
いきと暮らせ
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『09_01 高
齢者が地域で
安心して暮ら
せる環境づく
り』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

- ・「3.在宅福祉サービスの充実」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的であり、福祉サービスの需要増加や人材不足が影響していると考えられる。
- ・「2.(3)認知症対策 (患者及び家族の負担軽減)」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は低い。
- ・「1. ごみ出し支援の拡充」、「2. 認知症対策 (1) 認知症サポーターの養成」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「2. 認知症対策 (2) 予防及び早期発見」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「2. 認知症対策 (4) 認知症対策 (脳の健康度測定)」、「2. 認知症対策 (5) 認知症対策 (加齢性難聴に対する支援)」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、判断能力が不十分な人の権利擁護のため、福祉サービス利用援助を必要とする人が、埋もれることなく制度を利用できるよう、庁内の関係部署や関係機関との連携を強化し、制度周知に努める。
- ・介護を選択した人の満足度が低いことから、「2. (3) 認知症対策（患者及び家族の負担軽減）」については、引き続き、認知症一体的支援事業に取り組む団体に対して行う補助金事業の利用件数が目標値を達成できるよう制度周知の取り組みを進めるとともに、「3.在宅福祉サービス」については、見守りサービスの新たな手法を財源確保策も含め検討を進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【09_02】

健康福祉部

施策名称		介護予防の推進			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			
めざす姿（主観的満足度）		高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		高齢者がいつまでも健康に生活できるよう、介護予防を推進する。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	1. 高齢者居場所の支援 2. 介護予防及び外出支援の推進 ○タクシークーポン交換手続きの拡充 3. ひらかたポイントアプリの機能拡充 ○ひらかたポイントアプリに歩数計測機能を追加するなど、アプリの機能拡充				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.8%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で48.8%、最も低いのが40歳台で32.2%である。
- ・健康状態がよいとした人から順に、まあよい、ふつう、あまりよくない、よくないと低いことから、健康状態が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・住居形態のうち、その他を除き、家族（自身含む）の介護を選択した人の満足度が最も低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「ひらかたポイント利用者登録数」、「ひらかたポイントアプリ利用者登録数」、「健康行動取組者数」は、目標を達成している。「高齢者居場所など通いの場の参加率」、「市がサポートする自主グループの数」は未達成だが、目標には近づいている。「ひらかたポイントの使用件数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 高齢者居場所の支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
高齢者が自由に集い、交流することを通じて閉じこもり等を防ぎ、介護予防の促進を図るために、高齢者居場所などの集いの場の運営団体を支援。	・新たな介護予防拠点として実施する「街かど健康ステーション」を設置 ・高齢者居場所や街かどデイハウス等の通いの場の運営団体の支援方法を評価し、引き続き介護予防を推進	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
「街かど健康ステーション」を市内9か所に設置することにより、身近な場所で介護予防につながる体操や趣味活動、ノルディックポール貸与、自主グループ活動や健康に関する相談等ができる場所を整備した。今後、この介護予防拠点の市民周知をさらにに行い、参加者を増やしていく。また、今後、日常生活圏域に1か所設置を目指して増設していく。	街かど健康ステーションでの介護予防教室参加者が増加した。また、グループ組成も行われ、自ら介護予防に資する活動が徐々に増えてきた。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
高齢者居場所など集いの場の参加率	活動実績を求める高齢者居場所と健康ステーション（街かどデイハウス事業）（仮）の延べ参加者数／高齢者人口	8.0	%	健康づくり課	1．高齢者居場所の支援
各年度の実績		6.79	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナ等感染症予防対策による地域活動の自粛から復活しはじめた時期のため、目標値には達成しなかったが、令和5年度よりくわんかウォークスやひらかた夢かなえるエクササイズや、趣味活動を行う新たな自主グループが増加（41か所）したことで、通いの場の参加率が0.05%増加した。					
市がサポートする自主グループの数	活動を把握し、継続をサポートするひらかた元気くわんか体操実施グループ等の自主グループの数	510	グループ	健康づくり課	1．高齢者居場所の支援
各年度の実績		507	グループ	備考	
【施策指標の分析 R6】 自主グループの数は、くわんかウォークスで前年度比35%以上の増加であり、ひらかた夢かなえるエクササイズ実践グループでも増加傾向であるが、目標は未達成となっている。今後も、自主グループ組成、支援を継続していく。					

2. 介護予防及び外出支援の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
地域での介護予防や健康づくり事業に参加した市民に「ひらかたポイント」を付与。高齢者の外出機会の創出。	・タクシークーポン交換手続き方法の拡充検討・運用 ・ひらかたポイント利用場所の拡充検討	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
高齢者の外出機会を創出できる施策を検討し実行する。	・タクシークーポン交換の窓口受付は継続したうえで、8月よりWEB、電話での受付を開始。 ・ポイントの主な使用先である協力店について、廃業等で店舗数は減少したが、引き続き店舗数を増やす取り組みを行っていく。また、健康増進に寄与する市事業をポイント対象とするよう対象事業の拡充について検討を進めていく。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ひらかたポイントの使用件数	65歳以上のひらかたポイント使用件数	17,000	件	健康福祉政策課	2. 介護予防及び外出支援の推進
各年度の実績		15,694	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 ポイント使用件数は増加はしているものの、ポイント付与件数がより増加傾向にある。 ポイントを「使う」よりも「貯める」傾向にあることから、使用を促進するため、利用協力店の 拡大、交換メニューの充実に向け取り組んでいく。					

3. ひらかたポイントアプリの機能拡充

取り組みの内容	R6年度	担当課
アプリに歩数計測機能を搭載するなど、市民が楽しみながら運動できる仕組みを構築。獲得したポイントの利便性を向上させることで市民の健康増進活動を促進。	・ひらかたポイントアプリに歩数計測機能を追加するなど、アプリの機能拡充 ・利便性の向上 ・利用者の拡充を推進 ・キャッシュレス決済ポイントへの交換を導入 ・カードからアプリへの移行推進	健康福祉政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
ひらかたポイントアプリの機能を拡充し、幅広い年代の利用者の拡充を推進し、市民の健康増進活動を促進する。	ひらかたポイントアプリに歩数計測機能を追加することで利便性の向上と利用者の拡充を図り、カードからアプリへの移行促進に寄与した。 キャッシュレス決済ポイントへの交換の導入については引き続き取り組みを行っていく。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ひらかたポイント利用者登録数	ひらかたポイント制度の利用者登録数（カード・アプリを含む）	75,000	人	健康福祉政策課	3. ひらかたポイントアプリの機能拡充
各年度の実績		78,251	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 利用者登録数は増加傾向にあり、アプリ利用者も増加している。引き続き、イベント等へのブース出展や制度周知に取り組み、新たな利用者登録の推進に取り組む。					
ひらかたポイントアプリ利用者登録数	ひらポアプリの利用者登録数	28,000	人	健康福祉政策課	3. ひらかたポイントアプリの機能拡充
各年度の実績		30,642	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ひらかたポイントアプリに歩数連携機能を追加し、アプリ利用者の増加に寄与した。新規利用者のアプリ利用促進と並行して、引き続き、カード利用者のアプリ移行を推進していく。					
健康行動取組者数	健康増進に係る主な付与事業（1事業以上）参加者へのポイント付与人数	37,000	人	健康福祉政策課	3. ひらかたポイントアプリの機能拡充
各年度の実績		37,863	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 利用者登録数の増加に加え、1人あたりの付与事業への参加（健康行動取組）が増加したため、指標を大幅に上回った。延べ人数では、利用登録者数に対する健康行動取組率の伸び率が正しく図れないことから、利用者登録数における健康行動取組者数（実人数）に指標を変更する。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

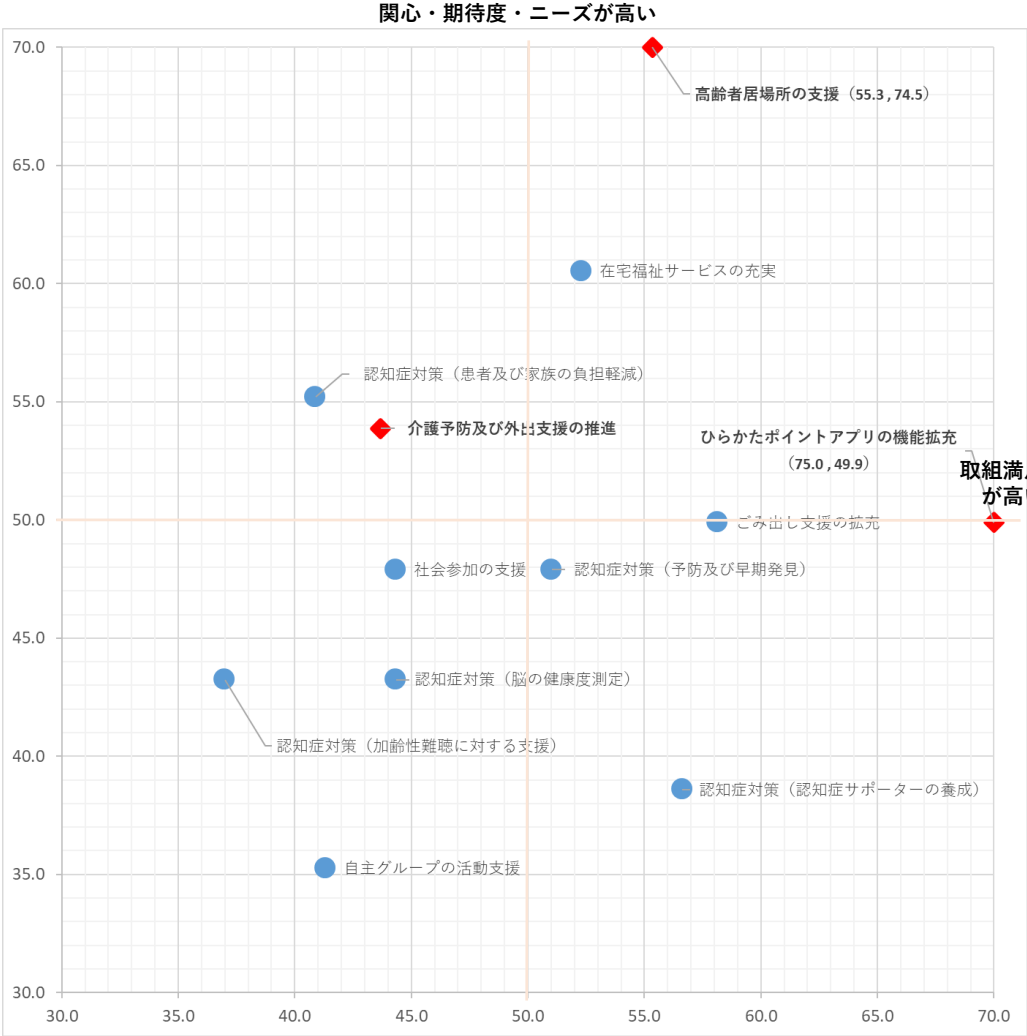
高齢者が地域でいきいきと暮らせる
09_02 介護予防の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.8%	16.7%	44.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
33.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『高齢者が地域でいきいきと暮らせる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『09_02 介護予防の推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 高齢者居場所の支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高く、高齢化社会の進展などによるニーズの高まりが影響していると考えられる。
- ・「2. 介護予防及び外出支援の推進」の関心・期待度・ニーズは平均的であるものの、取組満足度は低く、昨今の介護需要の高まりや、それに伴う介護人材不足などが影響していると考えられる。
- ・「3. ひらかたポイントアプリの機能拡充」の取組満足度は高いが、関心・期待度・ニーズが低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、高齢者の居場所の支援について、日常生活圏域に1か所の設置に向けた取り組みの推進や、高齢者の外出機会のさらなる創出を行っていく。
- ・高齢者の居場所の支援に向け、自主グループの組成、支援の継続が必要であるとともに、介護予防の観点からもひらかたポイントの付与対象事業の拡充検討や高齢者の外出機会を創出するため、貯めたポイントの使用促進に向けた取組の推進を行っていく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

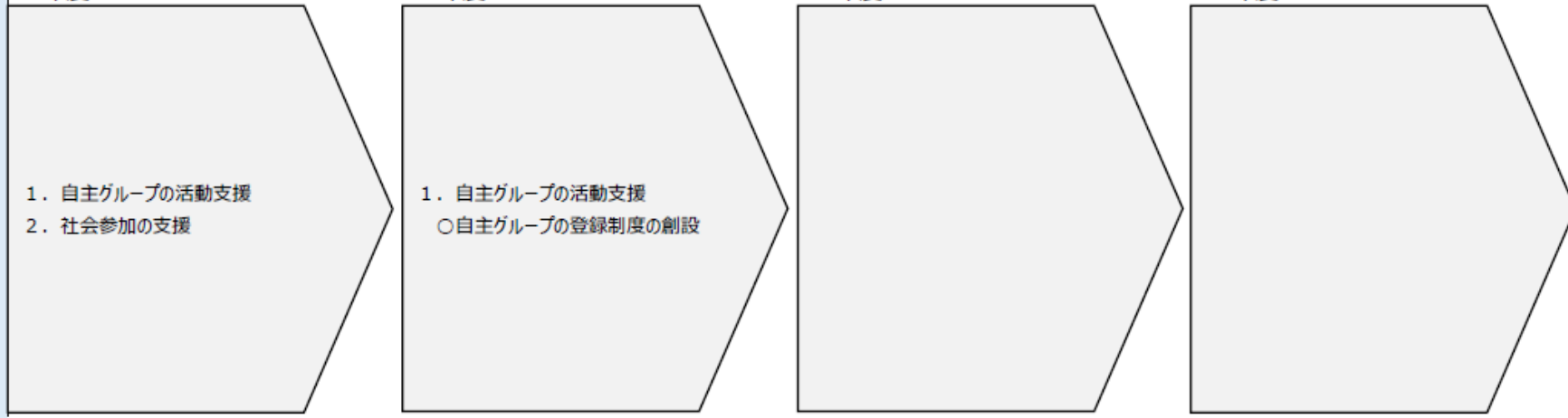
施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、市民満足度もかなり高いという結果であることから、当該施策を継続することで市民への健康意識の高まりや満足度の向上に期待する。
- ・市民生活満足度を上げる高齢者の健康で豊かな暮らしのためには多面的な対応が必要であり、居場所や活動の環境づくりは重要な要素であるが、画一的に提供しても個々のニーズとはマッチしないことも多く、きめ細かく需要に応えるサービス開発の多様化が求められている。
- ・施策05-01「公共交通機関の利用促進」内の課題で路線バスの廃止・減便が挙げられており、高齢者の交通手段としてタクシーの重要度が増すことが予見される。タクシークーポンの交換手続き方法の周知を強化していただき、高齢者の外出支援を今後も行っていきたい。
- ・本施策は中高年の生きがいづくりやQOLの向上、まちの活性化、医療費増加への抑制など、様々な効果が期待されているものといえ、今後の施策の発展にとっても期待する。
- ・介護予防、外出支援の推進をするのであれば、インセンティブだけではなく、土木や都市整備などの環境を取扱う部門と連携して、「外出したくなる、し易くなる」という環境行動デザインの観点を持つことが望まれる。外出への誘因としては、魅力的「場」づくり、物理的かつ心理的にサポートする環境づくりが鍵と考え、04-04の快適な歩行空間の整備と合わせて「枚方椅子プロジェクト」とのコラボも有効である。まちは公共のリビング（コモンリビング）と考えれば、ユニバーサルな居心地の良い環境となるのではないかと。

1. 施策の概要

施策シート【09_03】

健康福祉部

施策名称	高齢者の社会参加の促進			
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち		
	施策目標等	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち		
めざす姿（主観的満足度）	高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要	高齢者の技能・経験を活かせる活躍の場の確保など社会参加を促進する。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
				
	1. 自主グループの活動支援			
	2. 社会参加の支援			
	○自主グループの登録制度の創設			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.8%】

- ・年代別では、最も高いのが20歳台で48.8%、最も低いのが40歳台で32.2%である。
- ・健康状態がよいとした人から順に、まあよい、ふつう、あまりよくない、よくないと低いことから、健康状態が満足度につながる指標であることが読み取れる。
- ・住居形態のうち、その他を除き、家族（自身含む）の介護を選択した人の満足度が最も低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、3.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「ひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）による活動件数」が目標を達成している。「高齢者居場所など通いの場の参加率」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 自主グループの活動支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
健康無関心層をターゲットとして、趣味性の高いプログラムで「社会参加」のきっかけを提供。自主グループや支援組織と連携し、活動継続ができる仕組みを構築。	自主グループの登録・活動支援体制の構築に向けた検討（モデル実施）	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和6年度に新たに設置（9か所）した「街かど健康ステーション」にて、自主グループ活動の支援や活躍の場の提供を行った。活躍の場の提供としては、自主グループ活動の一環として、街かどデイハウスプログラムの講師として登壇できる場を設けるなどした。今後、市民周知をさらに行之い、社会参加できる地域づくりを行っていく。	自主グループの活躍の場の提供や支援を受けられるように、街かど健康ステーションとの連携ができるよう情報提供を行った。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
高齢者居場所など集いの場の参加率【再掲】	活動実績を求める高齢者居場所と健康ステーション（街かどデイハウス事業）（仮）の延べ参加者／高齢者人口	8.0	%	健康づくり課	1. 自主グループの活動支援
各年度の実績		6.87	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナ等感染症予防対策による地域活動の自粛から復活しはじめた時期のため、目標値には達成しなかったが、令和5年度よりくわんかウォークスやひらかた夢かなえるエクササイズや、趣味活動を行う新たな自主グループが増加（41か所）したこと、通いの場の参加率が0.87%増加した。					

2. 社会参加の支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
ひらかた生き生きマイレージについて、新任研修を開催するとともに、研修修了後のボランティア活動を希望するサポーター登録者について、活動の場とのマッチングを行い、活動を支援。また、すでに活動している者への現任研修を開催しながらモチベーションの維持に努める。	・新任研修を開催 ・研修修了後のボランティア活動を希望するサポーター登録者について、活動の場とのマッチング及び活動の支援	健康づくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・新任研修の参加者増加に向けた取り組みとして、介護予防事業とあわせた周知を図っていく。 ・現任研修では、サポーター自身が健康で継続した活動ができるように、介護予防に関する情報提供の方法を検討していく。	・新任研修（3回）：参加者数23名 ・現任研修（3回）：参加者数168名	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
ひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）による活動件数	ひらかた生き生きマイレージ事業において65歳以上の高齢者が介護保険施設等でサポーター活動を行う件数	1,000	件	健康づくり課	2. 社会参加の支援
各年度の実績		1,296	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 登録施設及びサポーター活動者の数の増加に伴い、活動件数が前年度（826件）の約1.5倍増加した。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

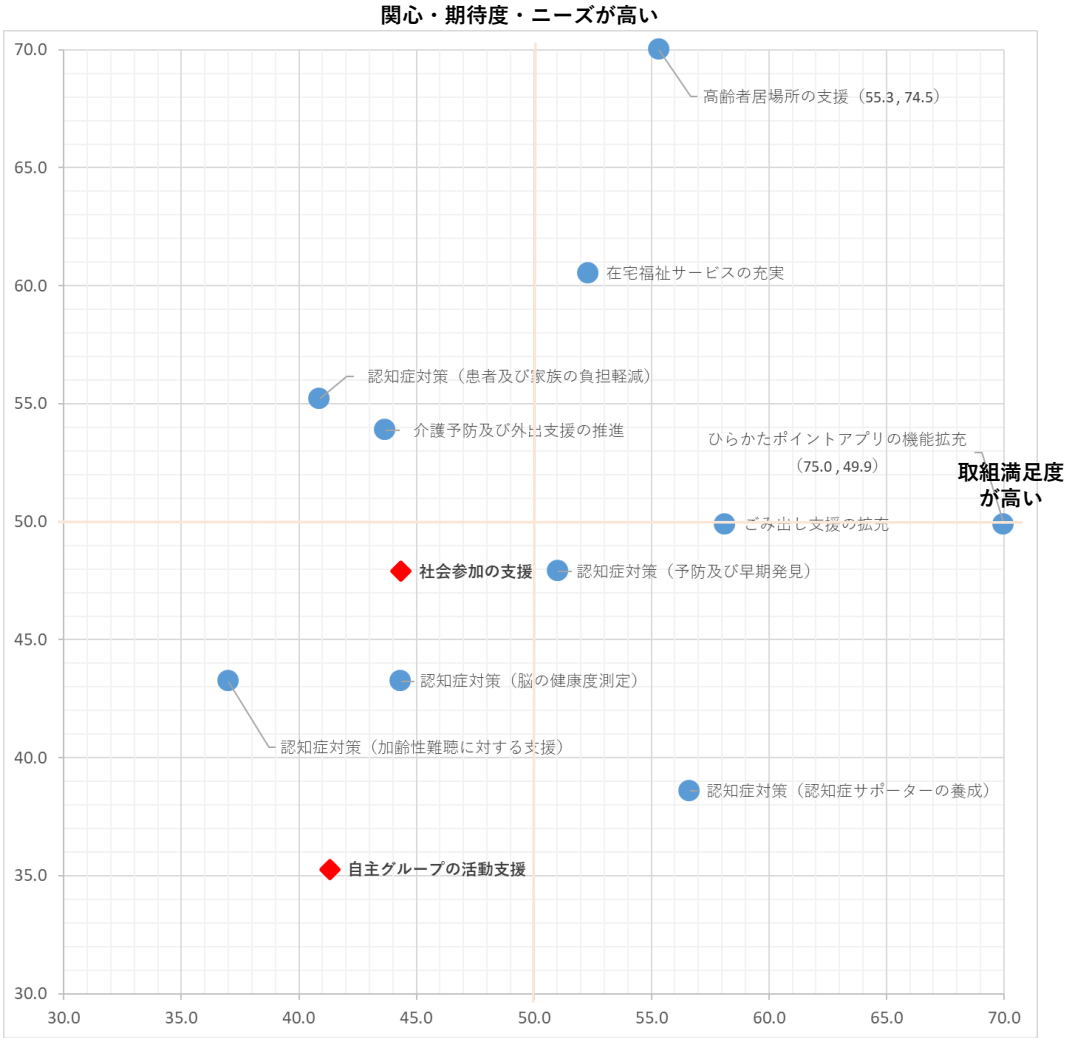
高齢者が地域でいきいきと暮らせる
09_03 高齢者の社会参加の促進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.8%	16.7%	44.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
33.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足度）『高齢者が地域でいきいきと暮らせる』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート『09_03 高齢者の社会参加の促進』に紐づく取り組み⇒
赤ダイヤ

施策の分析

- ・「1. 自主グループの活動支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「2. 社会参加の支援」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、効果的な支援のあり方や、満足度につながるよう取組内容のさらなる充実を図っていく。
- ・高齢者の社会参加促進に向け、対象者の満足度につながるようひらかた生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）のサポーター活動に関連する取組のさらなる周知や、通いの場の参加促進に向けた取組等を積極的に行っていく。

1. 施策の概要

施策シート【10_01】

福祉事務所

施策名称		社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	10. 障害者が自立し、社会参加ができるまち			
めざす姿（主観的満足度）		障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		障害者の社会参加の促進に向けた福祉サービスの充実を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	1. グループホームにおける重度障害者受入促進 2. くすの木園の跡地活用 3. 地域生活支援のための体制整備 4. 意思疎通支援の拡充 5. 障害者歯科診療日数の拡充 6. 補聴器購入補助の拡充 ○22歳到達年度末までの軽度難聴者（児）に対して補聴器等の扶助を実施	3. 地域生活支援のための体制整備 ○体験の機会・場についての整備及び拠点コーディネーターの設置			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度23.3%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で37.5%、最も低いのが60歳台で17.2%である。
- ・趣味やいきがいがあるとした人と、ないとした人で10ポイント以上の差があることから、満足度への相関関係が比較的高い指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.2ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「施設入所者の地域生活への移行」、「整備済の機能の数」、「障害者歯科診療件数」は目標を達成している。「障害者のグループホーム利用者数」、「引継ぎ（紹介）が可能な歯科医療機関数」は、未達成だが、目標には近づいている。「移動支援利用時間」、「コミュニケーション支援員派遣数」、「18歳以上で補聴器購入費用補助の利用を申請した人数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. グループホームにおける重度障害者受入促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
グループホームにおける重度障害者の受入を促進するため、重度障害者の受け入れを評価する補助金の交付。また事業所の人手不足解消のため、世話人養成研修、無料職業紹介所事業などを実施。	・グループホーム重度障害者対応改修補助金の見直し ・世話人養成研修 ・無料職業紹介所事業を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
重度障害者の受け入れにかかる補助金の申請や無料職業紹介所への相談については、想定ほどの実績がなかった。引き続き制度の周知を図っていく。	重度障害者の受け入れにかかる補助金の申請や無料職業紹介所への相談については、想定ほどの実績がなかった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者のグループホーム利用者数	障害者が地域で共同生活するグループホームの実利用者数（一月あたり）	575	人	障害企画課	1. グループホームにおける重度障害者受入促進（枚方市障害福祉計画（第7期））
各年度の実績		526	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標値とほぼ同数の実績値となった。					

2. くすの木園の跡地活用

取り組みの内容	R6年度	担当課
重度障害者グループホーム（地域生活支援拠点併設）の設置	敷地の土壌調査等を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
運営法人の決定や開設に向けた各種調整を行い、予定通りの運用開始を目指す。	土壌調査の結果、施設整備を阻害する要因は見つからなかった。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

3. 地域生活支援のための体制整備

取り組みの内容	R6年度	担当課
障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、障害者等の生活を地域全体で支える提供体制を構築するため、市が中心となって地域の実情に応じて必要な機能を整備。中心的な役割を担うコーディネーター（以下、「拠点コーディネーター」という）の配置。	・緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場についての整備 ・整備済の機能について、継続的に検証・検討	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
地域生活支援拠点等の5つの機能の整備を進める中、コーディネーターについてはより柔軟に手法等を検討する。	緊急時の受け入れ・対応は整備済み。体験の機会・場は引き続き検討	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
整備済の機能の数	整備済の機能の数	4	機能	障害企画課	3. 障害者の地域生活支援のための体制整備
各年度の実績		4	機能	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標の数値を達成した。次年度目標の整備済機能数の達成を目標に、支援体制の整備を進めていく。					

4. 意思疎通支援の拡充

取り組みの内容	R6年度	担当課
コミュニケーションに困難を有する障害者が、入院する際に、現に利用している事業所の従事者をコミュニケーション支援員として派遣。	対象者要件を緩和	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き制度の周知を図り、利用希望者が制度活用できるよう周知を行う。	対象者の要件を緩和したものの、利用実績はなかった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
コミュニケーション支援員派遣数	1年間のコミュニケーション支援員を派遣した対象者数	6	人	障害企画課	4. 意思疎通支援の拡充
各年度の実績		0	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度より拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要すると考えます。					

5. 障害者歯科診療日数の拡充

取り組みの内容	R6年度	担当課
一般の歯科医療機関で診療が困難な障害者対象に枚方市歯科医師会が行っている歯科診療事業に対して、補助額を増額し診療日数を増やす。	同事業で一定治療後の受診者を引継ぎ(紹介) できる歯科医療機関の増加を図る	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
引き続き制度の周知を図り、利用希望者が制度活用できるよう周知を図る。	歯科診療事業の拡充により、利用者数が増加した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者歯科診療件数	障害者歯科診療事業で1年間に受診した人数	1,008	人	障害企画課	5. 障害者歯科診療日数の拡充
各年度の実績		1,039	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 見込を上回る実績となった。引き続き制度を必要とする方の利用につながるよう、制度を継続的に運用していく。					
引継ぎ(紹介) 可能な歯科医療機関数	同事業で一定治療後の受診者を引継ぎ(紹介) できる歯科医療機関の増加を図る	7	か所	障害企画課	5. 障害者歯科診療日数の拡充
各年度の実績		5	か所	備考	
【施策指標の分析 R6】 見込数値を達成することはできなかった。次年度以降も引継ぎ(紹介) 可能な歯科医療機関の増加を図っていく。					

6. 補聴器購入補助の拡充

取り組みの内容	R6年度	担当課
身体障害者手帳の交付対象とならない軽度難聴児に対する補聴器購入補助について、対象者を現在の18歳未満から22歳到達年度末まで拡充。	22歳到達年度末までの軽度難聴者(児) に対して補聴器等の扶助を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今年度より対象者の拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要する。引き続き利用希望者が制度活用できるよう、周知を行う。	対象者の拡大を行ったものの、制度の利用には至らなかった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
18歳以上で補聴器購入費用補助の利用を申請した人数	身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中度難聴障害がある若者で補聴器等を申請した人数。	5	人	障害企画課	6. 補聴器購入補助の拡充
各年度の実績		0	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度より拡充し周知を実施したが、実績が挙がるには一定の時間を要する。考える。					

●取り組みに紐づかない指標

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
施設入所者の地域生活への移行	障害福祉計画の目標として掲げる施設入所者の地域生活への移行者数	3	人	障害企画課	枚方市障害福祉計画（第7期）
各年度の実績		3	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 目標数値を達成した。次年度以降も引き続き施策を継続していく。					
移動支援利用時間	1年間の移動支援事業の利用者時間	221,423	時間	障害企画課	-
各年度の実績		200,440	時間	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナの5類移行後、利用者は徐々に増加しているものの、見込ほどの利用には至っていない。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

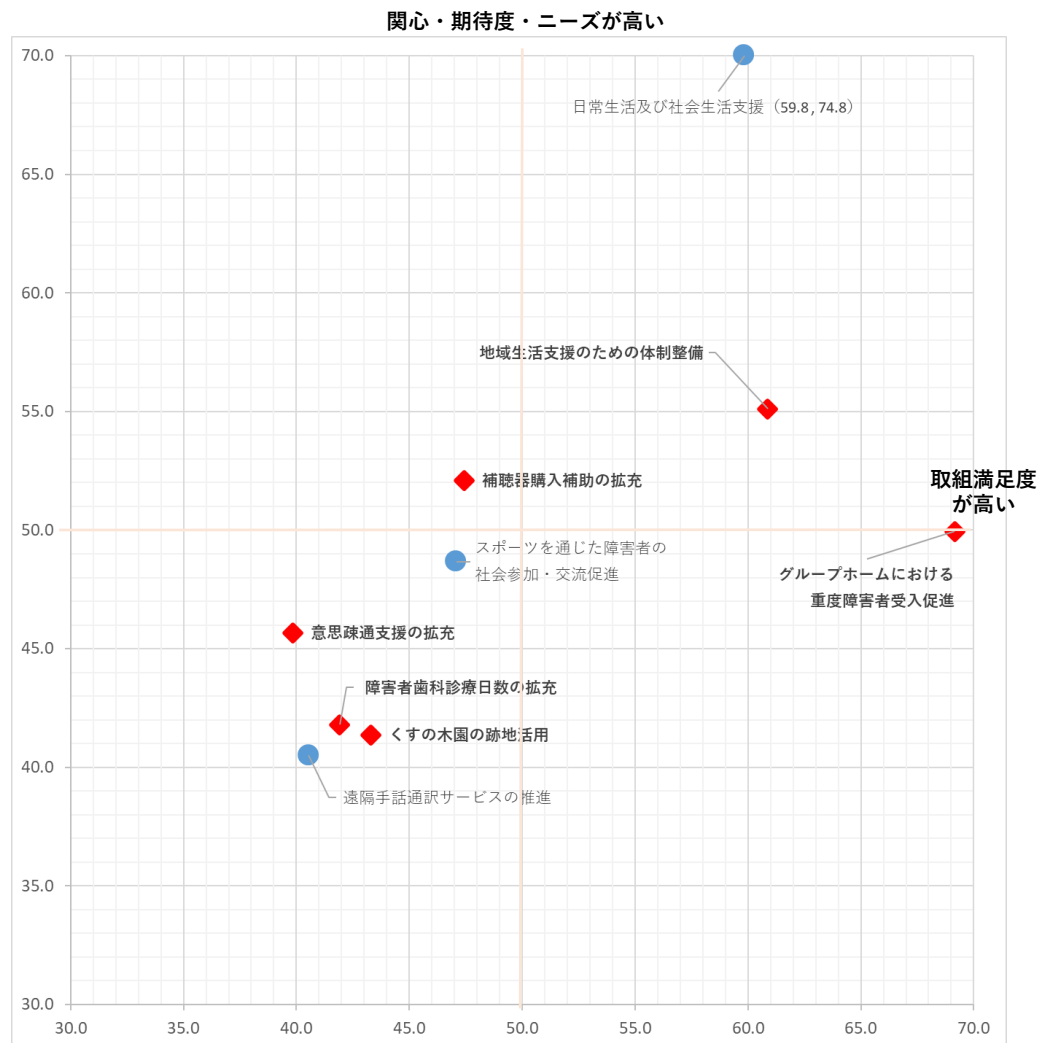
障害者が地域でいきいきと暮らせる
10_01 社会参加の促進に向けた
福祉サービスの充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
23.3%	12.5%	64.3%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
59.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『障害者
が地域でいき
いきと暮らせ
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『10_01 社
会参加の促進
に向けた福祉
サービスの充
実』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. グループホームにおける重度障害者受入促進」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「3. 地域生活支援のための体制整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「6. 補聴器購入補助の拡充」、「4. 意思疎通支援の拡充」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「5. 障害者歯科診療日数の拡充」「2. くすの木園の跡地活用」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き障害者の社会参加の促進に向け、動向等を注視しながら支援のあり方や制度のさらなる周知に取り組む必要がある。
- ・障害者の社会参加促進に向け、対象者が必要な支援を受けることができるよう取り組みのさらなる周知が必要である。
- ・「3. 地域生活支援のための体制整備」については、体験の機会・場についての整備やコーディネーターの配置に向け取り組みを推進していく。
- ・「4. 意思疎通支援の拡充」、「6. 補聴器購入補助の拡充」は、引き続き周知強化を行い、事業目的を踏まえた取り組みを推進する。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られている。また実績が「0」という施策も重要なものであり、時間をかけることで施策内容が市民の中に浸透することもあるが、より具体的な対応を検討し実施することで、利用実績がより早まるのではないかと。
- ・地域生活支援はさらに充実推進する必要がある。グループホーム施策、歯科治療は現状で十分かもしれないし、今後のニーズ把握を的確に進める必要がある。また、意思疎通支援などスキームを含めて抜本的に見直す必要がある。
- ・障がい者の地域参加について、グループホームの充実や場の設定、コーディネータ配置などがあるが、実際に地域参加ができる結果を生み出しているのか、今後生み出せるのか疑問である。障がい者を中心に地域参加の機会を増やす工夫が必要である。また、その需給はマッチングしているのか、障がい者ニーズの的確な把握が必要である。
- ・未達成の原因が周知不足と分析している取り組みについては、周知活動に力を入れて、必要としている方に必要な取り組みが提供できるように取り組んでいただきたい。
- ・特に令和6年度から実施された「4. 意思疎通支援の拡充」と「6. 補聴器購入補助の拡充」について、周知強化を行っていただきたい。
- ・保護者の高齢化や親亡きあとの支援、兄弟児の問題や支援など、昔とは質の異なる新たな課題が生じているといえる。「地域共生社会」という言葉はあるが、依然として障害者の方やそのご家族が地域の中で孤立しているケースも少なくなく、周囲の住民や社会の意識醸成をさらに図っていただきたい。
- ・人材不足も社会的な課題につながっている。社会福祉分野にかかわる職員の方々の質の向上やメンタルヘルスにかかわる研修、職場内外の職員の方々同士の情報交換の場の充実も急務ではないか。

1. 施策の概要

施策シート【10_02】

福祉事務所

施策名称		障害への理解促進、地域との交流の場の提供			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	10. 障害者が自立し、社会参加ができるまち			
めざす姿（主観的満足度）		障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っている			
概要		障害者への理解促進や地域との交流の場の提供を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度	
	1. 日常生活及び社会生活支援 2. 遠隔手話通訳サービスの推進 3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進		R9年度		

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度23.3%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で37.5%、最も低いのが60歳台で17.2%である。
- ・趣味やいきがいがあるとした人と、ないとした人で10ポイント以上の差があることから、満足度への相関関係が比較的高い指標であることが読み取れる。
- ・昨年度と比較すると全体では、0.2ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「スポーツ講習会の参加人数」は目標を達成している。「遠隔手話通訳サービスの利用件数」は未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 日常生活及び社会生活支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供。障害者の地域生活に必要な相談や情報提供の実施。	障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
新型コロナ過以降利用者の増加は鈍化傾向。引き続き施策を継続的に実施する。	障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
地域活動支援センター事業の利用者数	障害者の日中活動や地域との交流の場である地域活動支援センターの利用者数	37,474	人	障害企画課	1. 日常生活及び社会生活支援
各年度の実績		36,012	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナの感染状況が落ち着くに伴い、利用件数が増加しつつある。					

2. 遠隔手話通訳サービスの推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
本庁4か所、出先4か所でタブレット端末による遠隔手話通訳を実施。また、1年中外出先等からすぐ利用できる遠隔手話通訳サービスを委託により実施。	遠隔手話通訳サービスの利用動向を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
利用件数は増加しているものの周知不足により、目標値を達成することができなかった。今後、利用者の増加に向け、広報への掲載など周知活動に取り組む。	遠隔手話通訳サービスの利用を推進した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
遠隔手話通訳サービスの利用件数	遠隔手話通訳サービスの1年間の延べ利用件数	665	件	障害企画課	2. 遠隔手話通訳サービスの推進
各年度の実績		643	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 新型コロナの感染状況が落ち着くに伴い、利用件数が増加しつつあるものの利用件数は依然として目標値を下回っている。引き続き制度の継続的実施を行う。					

3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進

取り組みの内容	R6年度	担当課
eスポーツやウィルチェアスポーツの障害者社会参加促進事業スポーツ講習会の実施。	障害者がeスポーツやウィルチェアスポーツ等に親しんでもらうための講習会を実施	障害企画課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
デジタルサイネージ等、様々な方法で周知を行った結果、定員を上回る参加があった。引き続き周知方法を工夫しながら、広く参加を呼び掛けていく。	障害者がeスポーツやウィルチェアスポーツ等に親しんでもらうための講習会を実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
スポーツ講習会の参加人数	スポーツ講習会の1年間の延べ参加者数	60	人	障害企画課	3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進
各年度の実績		60	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 デジタルサイネージ等、様々な方法で周知を行った結果、見込み通りの参加があった。引き続き周知方法を工夫しながら、広く参加を呼び掛けていく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

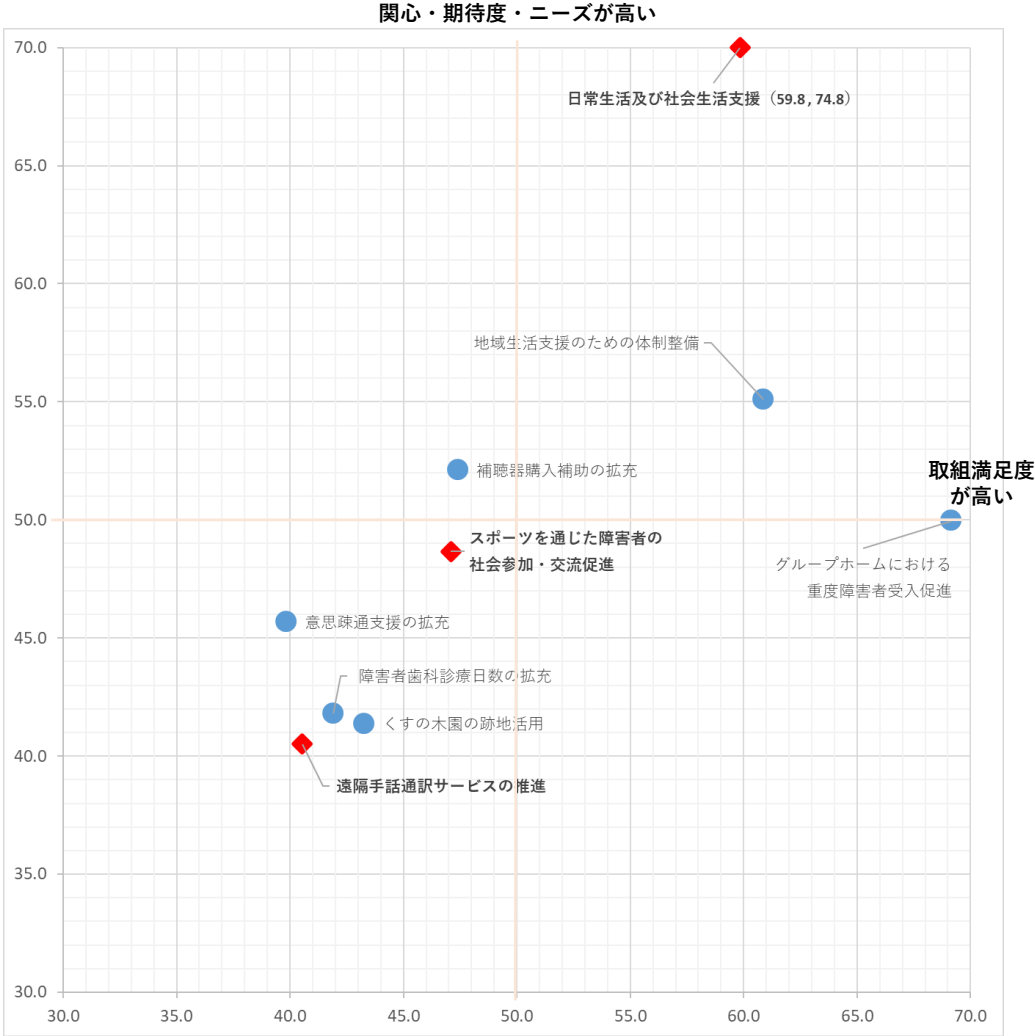
障害者が地域でいきいきと暮らせる
10_02 障害への理解促進、地域
との交流の場の提供

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
23.3%	12.5%	64.3%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
59.2%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『障害者
が地域でいき
いきと暮らせ
る』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『10_02 障
害への理解促
進、地域との
交流の場の提
供』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 日常生活及び社会生活支援」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. 遠隔手話通訳サービスの推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。
- ・「3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、障害者の自立や社会参加の促進に向け、対象者への必要な情報提供や制度周知を行っていく。
- ・障害者の自立・社会参加には、障害者への理解促進を図ることが必要なことから、引き続き、地域活動支援センター事業の利用者数やスポーツ講習会の参加人数の増加に向けて、事業内容のさらなる充実や積極的な情報発信を行っていく。
- ・「1.日常生活及び社会生活支援」について、引き続き障害者の自立に向け、必要な相談や情報提供に取り組む。また、「3. スポーツを通じた障害者の社会参加・交流促進」については、趣味や生きがいの有無と満足度との相関関係が比較的高いことから、障害者の社会参加促進に向け、効果的な周知方法を行い、参加者数の増加につなげる。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、当該施策を継続・発展させることで、市民への意識の広がりや満足度のさらなる向上を期待する。
- ・施策の目標からは、地域住民理解と障がい者の社会参加が進んでいることが目標なので、それにふさわしい調査や分析が必要である。これによって、次の施策や事業の在り方が明らかになると思われる。
- ・理念や目標を確認した上で、施策の目標に合った調査や分析により、施策や事業の組み立てを考える必要がある。
- ・パラリンピックなどの影響により、障がい者のスポーツ選手も数多く注目されていることから、引き続きスポーツ講習会等を実施していただきたい。
- ・障害の垣根を超えるためには、同じ目線で一緒に取り組める体験は有効であり、市内の大学と協力しながら、様々な世代の人たちが楽しめる企画やプログラムを検討し、全国の障害者スポーツ大会に出場されている選手の方との交流や試合を行うイベントがあると、子どもの教育にもつながるのではないかと。

1. 施策の概要

施策シート[11_01]

市長公室

施策名称		人権教育・啓発の推進			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	11. すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち			
めざす姿（主観的満足度）		一人ひとりが人権を尊重し合っている			
概要		すべての市民の人権が大切にされる社会の実現に向け、人権問題を正しく理解し、一人ひとりの個性や価値観を認め合えるよう、人権教育・啓発の推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. 人権尊重の意識醸成 2. 性的マイノリティ支援			
	R7年度	1. 人権尊重の意識醸成 ○イベントを実施			
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度31.0%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で62.5%、最も低いのが70歳台で28.5%である。
- ・男性よりも女性が低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、「啓発イベント等に参加した人の満足度」は目標を達成している。「人権啓発イベント等の参加者数」、「LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））利用者数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 人権尊重の意識醸成

取り組みの内容	R6年度	担当課
令和5年度に見直しをおこなった「人権尊重のまちづくり条例」の理念に基いた、市民・事業所向け啓発の実施。 また、特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会と連携した効果的な人権啓発の実施。	・条例理念の周知・啓発 ・市民対象の啓発イベント（講演会・映画会・講座等）を実施	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
人権尊重のまちづくり条例の理念を踏まえ、市民・事業者の役割や責務など条例の趣旨等を引き続き周知・啓発していく必要がある。	・広報ひらかたやHPにより条例理念の周知・啓発を行った。 ・枚方人権まちづくり協会と連携し、講座「生きること」など、啓発のための講演を6回実施した。（参加者数 365人）	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
啓発イベント等に参加した人の満足度	啓発イベント等に参加した人のアンケート結果で、満足した人の割合	90	%	人権政策課	1. 人権尊重の意識醸成
各年度の実績		95.29	%	備考	
【施策指標の分析 R6】目標を上回る結果で、満足した人の中でも、7割以上が5段階で最高の評価をしている。今後は実績を維持しつつ、より幅広い層が参加する啓発事業に取り組む。					
人権啓発イベント等の参加者数	人権に関する講座など人権啓発イベント等への参加者数	630	人	人権政策課	1. 人権尊重の意識醸成
各年度の実績		365	人	備考	
【施策指標の分析 R6】計画通りに啓発事業を実施したが、12月の人権週間事業の参加者が、例年と比べ大きく減少するなど各事業において参加者数が少なかった。今後は、多くの参加者が見込める話題性と、人権啓発の意義付けの両立できるような啓発事業を検討していく。					

2. 性的マイノリティ支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
性の多様性の理解促進の一環として、「LGBTQ+電話相談」、「コミュニティスペース」のほか、市民向け啓発事業の実施。	相談者の利便性の向上を図るため、現行のLGBTQ+電話相談に加え若年の相談者にも利用しやすいオンライン（チャット）相談を開始	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
コミュニティスペース、チャット相談の利用者についてはまだ限られているため、今後より効果的な周知を図る必要がある。	LGBTQ+の相談支援を拡充し、より利用しやすい体制づくりに取り組み、当事者に寄り添った支援を推進してきた。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））利用者数	LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））を利用した人の延べ人数	30	人	人権政策課	2. 性的マイノリティ支援
各年度の実績		18	人	備考	
【施策指標の分析 R6】電話相談の利用者は減少傾向であるが一定の需要がある。R6.11開始のチャット相談の利用者についてはまだ限られているため、今後より効果的な周知を図る必要がある。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

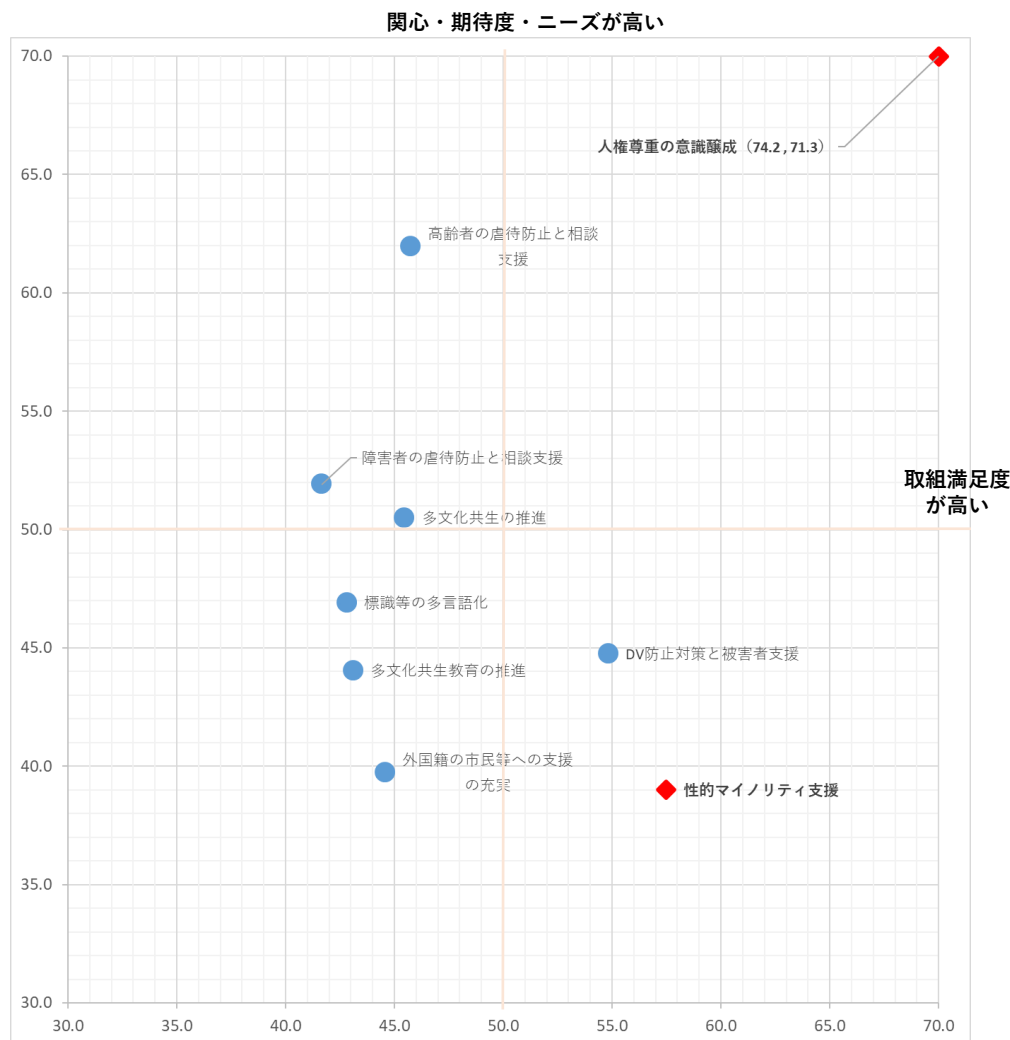
一人ひとりが人権を尊重
11_01 人権教育・啓発の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
31.0%	11.5%	57.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
55.8%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『一人ひとりが人権を尊重』に紐づく全取り組み
⇒青丸●

上記のうち施策シート『11_01 人権教育・啓発の推進』に紐づく取り組み
⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 人権尊重の意識醸成」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. 性的マイノリティ支援」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き一人ひとりの個性や価値観を認め合えるよう、人権教育・啓発の推進を図っていく。
- ・人権啓発イベントの参加者数の増加や相談支援が必要な人へ漏れなく行き届くよう、効果的な周知を行う。
- ・「1.人権尊重の意識醸成」について、年代別での満足度の差が大きいことから、年代別のニーズを把握の上で幅広い層をターゲットとした事業実施に向けた検討する。
- ・「2. 性的マイノリティ支援」について、引き続き、性の多様性の理解促進の一環として、事業の効果的な周知を図る。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

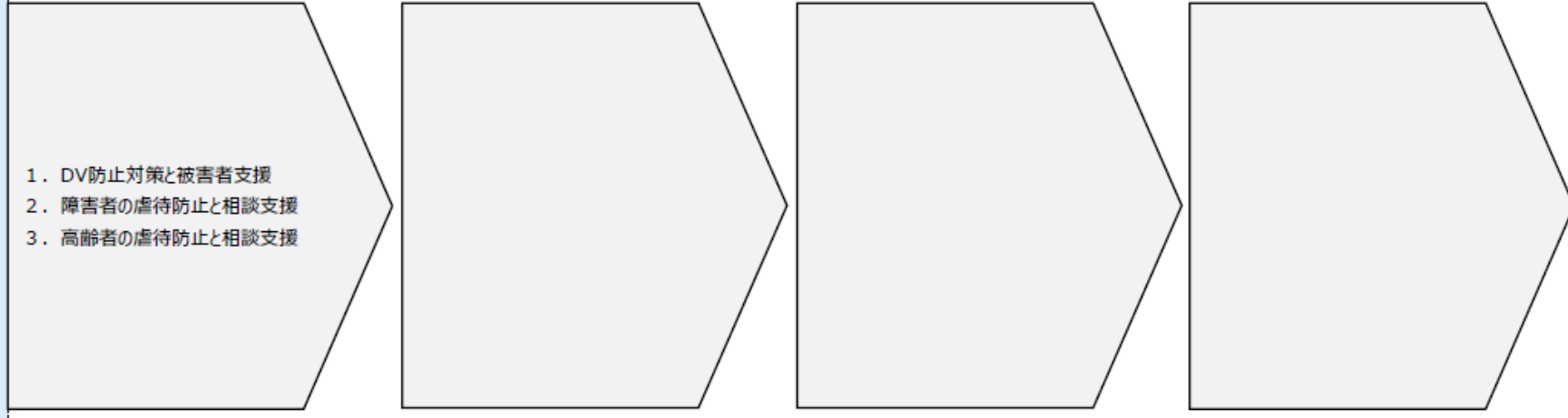
施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績も見られ、市民満足度も少し高いという結果になっているが、昨今、SNSによる誹謗中傷なども問題になっており、SNSは若者世代だけでなく、その上の世代でもよく利用されていることから、そもそもSNSによる誹謗中傷とは何か（どこまでを意見とするのか、どこからが誹謗中傷になるのかなど）、それに対する対応策や誹謗中傷の受け止め方など、人権教育・啓発の幅をもう少し広げてよいのではないかと。
- ・人権啓発の手法として、イベントの実施が適切なのか検討すべきではないか。過年度より目標値を達成できていないことに加えて、関心が低い市民の参加は見込みにくい。これらを踏まえて市としては、関心が低い市民に対して、その意識醸成・啓発を図ることに注力すべきではないか。
- ・人権啓発も相談も待ち受け型になっていることから、アウトリーチを考える必要がある。様々な参加機会に人権教育を試みることができるのではないかと。
- ・人権施策は停滞していることから、抜本的な改革を必要としている。内部評価も、高い評価は出しにくいし、事業が役立っているという実感も少ないのではないかと。惰性になっている事業を見直し、アウトリーチと当事者参加を基本とするプログラムに切り替えていったらどうか。そうすれば成果型の指標や目標も立てやすくなる。
- ・性的マイノリティに対する社会全体としての理解は一步ずつであるが、前進しているように感じる。枚方市民においても一層理解が進み、誰もが住みやすい街となるように、取り組みを進めていきたい。
- ・近年「〇〇ハラスメント」「働き方改革」などの言葉が様々な場所で用いられ、それに伴う対応もとられるようになってきているが、一方でその対応の度合いが過度になると、新たな課題にもつながる。「人権」は様々な対象者や場面で注目されることから、人権教育や啓発のテーマや内容については、今後も世の中で話題になっていることを敏感にキャッチいただき反映していくことを期待する。それが参加者数増加等につながり、より多くの人に広まるように思う。

1. 施策の概要

施策シート【11_02】

市長公室、健康福祉部、福祉事務所

施策名称	人権侵害への支援の充実			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち		
	施策目標等	11. すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち		
めざす姿（主観的満足度）	一人ひとりが人権を尊重し合っている			
概要	配偶者等からの暴力（DV）や、高齢者、障害者などへのさまざまな人権侵害に対し、関係機関が連携しながら支援の充実を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
				
	1. DV防止対策と被害者支援			
	2. 障害者の虐待防止と相談支援			
	3. 高齢者の虐待防止と相談支援			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度31.0%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で62.5%、最も低いのが70歳台で28.5%である。
- ・男性よりも女性が低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、「障害者虐待に関する相談件数」、「障害者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合」、「高齢者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合」は目標を達成している。
「DV被害に関する相談件数」、「DVに関する各種証明発行件数」、「高齢者虐待に関する相談件数」については、未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. DV防止対策と被害者支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」におけるDV相談及び、DV防止に向けた啓発事業等の実施。	・DV被害者の相談対応 ・各種証明発行 ・保護命令申立支援 ・一時保護移送 ・DV防止啓発イベント等の実施 ・小中学校へのDV予防教育プログラムを実施	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
DV相談では児童虐待や生活困窮など、関係機関と連携が必要な相談も多いためより連携を強化していく。DV防止に向けた啓発については、引き続き、若年層に向けた効果的な啓発に努める。	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」において、電話相談、面接相談を実施した。 また、デートDV防止案内カードを市内高等学校の希望校に配布し、デートDV防止ハンドブック「あなたと私の心とからだを大切に」を市内中学校の希望校に配布した。小中学校に「DV予防教育プログラム」を周知し希望校で実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
DV被害に関する相談件数	配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」におけるDV被害に関する相談件数	1,800	件	人権政策課	1. DV防止対策と被害者支援
各年度の実績		1,264	件	備考	
【施策指標の分析 R6】R5年度までのコロナ禍においては電話による相談が35%増加、面接相談も増加傾向であり、高止まりが続いていたが、R6年度においては大幅に相談件数が減少した。					
DVに関する各種証明発行件数	配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」において、住民票の閲覧制限に係る証明など、各種証明を発行した件数	150	件	人権政策課	1. DV防止対策と被害者支援
各年度の実績		117	件	備考	
【施策指標の分析 R6】DVに関する各種証明発行件数は例年150件前後を推移しており、R6年度は若干減少した。引き続き、庁内関係課、転出先及び前住所地等の自治体住民基本台帳担当等と綿密に連携し、支援者の申し出に基づき証明書発行の対応を行う。					

2. 障害者の虐待防止と相談支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
障害者虐待の通報・相談を受けて、被害者の保護や再発防止などの支援を実施。	・全ての通報等を対象にコア会議で対応方針を検討 ・支援の連携強化を目的に虐待防止関係機関会議を開催	障害支援課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
虐待対応は、問題が深刻化する前に早期に発見し、支援を開始することが重要であるため、引き続き関係機関と連携しながら、迅速な対応を推進する。	・コア会議による検討を中心に、迅速な対応を図った。 ・虐待防止関係機関会議を開催し、連携の強化を図った。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
障害者虐待に関する相談件数	「障害者虐待防止センター」における障害者虐待に関する相談件数	80	件	障害支援課	2. 障害者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		99	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 相談窓口の周知や関係機関と連携した対応の結果、定期的に通報が行われており、前年度（97件）とほぼ横ばいの相談実績で推移している。					
障害者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合	虐待認定の結果、解決、支援につながった割合	100	%	障害支援課	2. 障害者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 虐待認定事案など対応が求められるケースについては、関係機関との連携を図りながら、全ての事案において必要な支援を実施した。					

3. 高齢者の虐待防止と相談支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
高齢者に対する虐待発生の予防や早期発見、必要な支援につなぐため、市や地域包括支援センターで高齢者虐待に関する相談を実施。	高齢者虐待に関する相談に迅速に対応	健康福祉総合相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
高齢者虐待に関する相談に対して、地域包括支援センターをはじめとした関係者と連携し、相談にあたった。	地域包括支援センターと協力し、ネットワーク会議を開催した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
高齢者虐待に関する相談件数	高齢者虐待に関する市への相談件数	140	件	健康福祉総合相談課	3. 高齢者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		119	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 虐待の相談件数としては、横ばい傾向である。関係機関と連携しながら、虐待の相談に迅速に対応していく。					
高齢者虐待に関する相談の結果、解決・支援につながった割合	市や地域包括支援センターが対応した高齢者虐待の相談に対して、適切な支援先につながった割合	100	%	健康福祉総合相談課	3. 高齢者の虐待防止と相談支援
各年度の実績		100	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターと協力してネットワーク会議を開催し、虐待の早期発見、早期対応に向け取り組んだ。引き続き関係機関と連携し、虐待防止の取り組みとともに支援を行っていく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

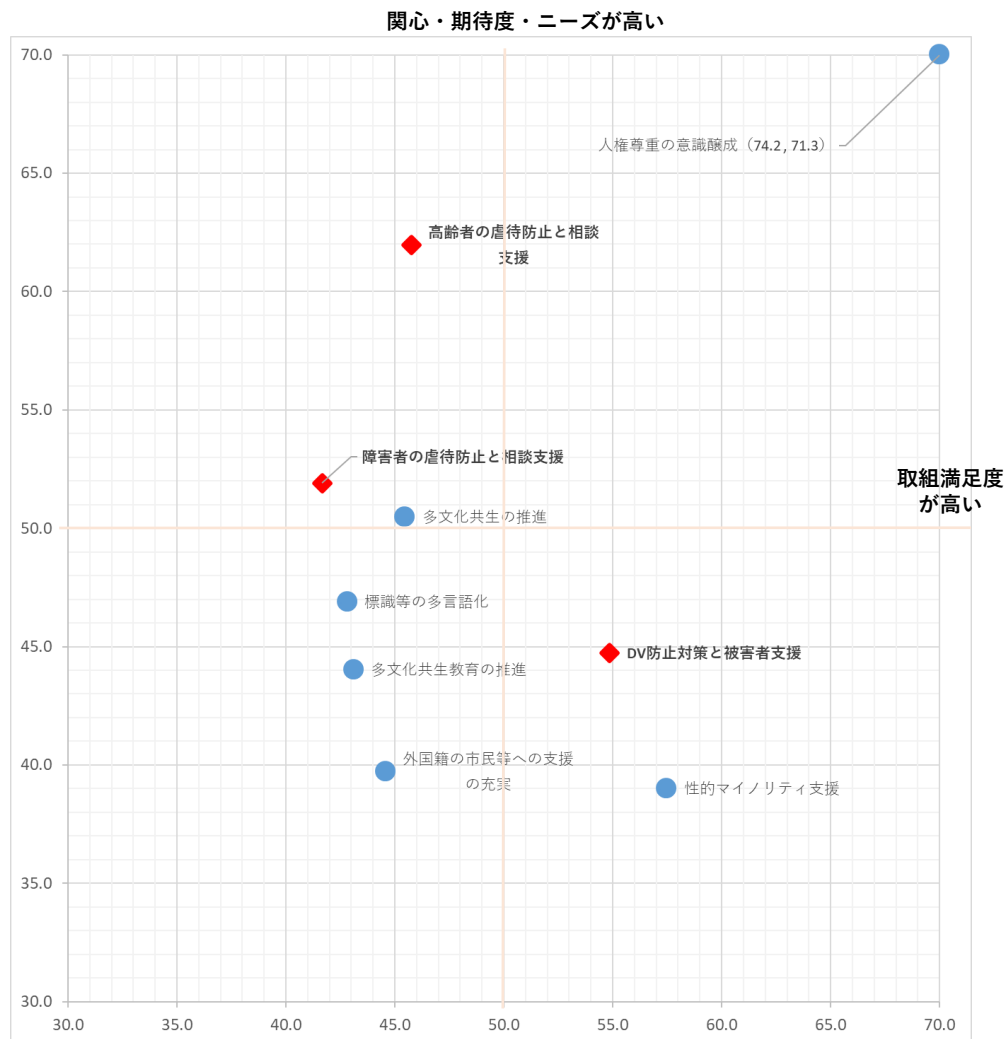
一人ひとりが人権を尊重
11_02 人権侵害への支援の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
31.0%	11.5%	57.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
55.8%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



施策の分析

- ・「1. DVの発生防止と相談支援」の関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「2. 障害者の虐待防止と相談支援」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「3. 高齢者の虐待防止と相談支援」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、配偶者等からの暴力（DV）や、高齢者、障害者などへのさまざまな人権侵害に対し、関係機関が連携しながら支援の充実を図っていく。
- ・70歳代で満足度が最も低い結果から、「3.高齢者の虐待防止と相談支援」の取組は、潜在的なニーズも高いことが考えられるため、早期の事案発見に向け、引き続き関係機関と連携しながら、迅速な対応を行っていく。

1. 施策の概要

施策シート【11_03】

観光にぎわい部、学校教育部

施策名称		多文化共生社会の形成の支援		
総合計画体系	基本目標等	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち		
	施策目標等	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち		
めざす姿（主観的満足度）		一人ひとりが人権を尊重し合っている		
概要		多様な文化を認め合えるよう、人権教育・啓発を図るとともに、外国籍の市民等にとっても、住みやすいまちづくりを行う。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			
		1. 多文化共生の推進 2. 標識等の多言語化 3. 外国籍の市民等への支援の充実 4. 多文化共生教育の推進		
	R7年度			
	R8年度	2. 標識等の多言語化 ○標識、案内板の多言語化を段階的に具体化		
	R9年度			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度31.0%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で62.5%、最も低いのが70歳台で28.5%である。
- ・男性よりも女性が低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、1.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、すべての取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 多文化共生の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
・外国人市民等のニーズを踏まえた「国際化施策に関する考え方」の取り組みの具体化及び推進。 ・「国際化施策に関する考え方」における取り組みの進捗管理。	・ニーズを踏まえた取り組みの具体化検討 ・現状把握	観光交流課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
外国人市民等のための相談窓口について具体化に向けた検討を進める。	・「国際化施策に関する考え方」の取り組みについて、庁内照会とヒアリングによる現状把握を行った。 ・外国人市民等の相談窓口について、他市状況や国制度の調査を行い、国際化施策検討委員会で協議した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
国際化関連講座受講者数	市が主催する国際理解講座等、多文化共生、国際化推進のための講座・イベント参加者数	86	人	観光交流課	1. 多文化共生の推進
各年度の実績		166	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 ベトナムをテーマにした国際理解講座について予定定員35名を上回る応募があり、受講人数を増やし対応した。					

2. 標識等の多言語化

取り組みの内容	R6年度	担当課
外国籍の市民等に向けた標識、案内板の多言語化を推進。	・観光関係の案内板等の多言語化の実施（枚方宿） ・市域全体の案内板における多言語化に着手する候補選定など対応策の検討	観光交流課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・観光交流課所管の案内板等について、引き続き、多言語化に取り組む。 ・引き続き、庁内各課に取り組みを促す。	・枚方宿周辺において、看板等の補修に合わせ、18カ所で多言語化を実施した。 ・国際化施策の考え方に基づき、庁内全課へ「公共施設等の都市施設の案内・サイン等の多言語化の推進」への取り組みを促した。	
年度ごとの達成状況	◎	

※関連指標なし

3. 外国籍の市民等への支援の充実

取り組みの内容	R6年度	担当課
①生活のうえで必要となるさまざまな情報を提供することを目的に、やさしい日本語を含む7か国語にて「外国人のための枚方生活ガイド」を発行。 ②生涯学習市民センターでは日常生活に困っている人を対象に日本語・多文化共生教室として「よみかき教室」を実施。	・現状把握 ・ニーズを踏まえた取り組みの具体化検討 ①継続 ②日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象に、日本語学習の場を提供する。地域に住むすべての人が、豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指す	観光交流課、教育政策課、文化生涯学習課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
①ガイドの年度更新を行うとともに、外国人市民等のための相談窓口について具体化に向けた検討を進める。 ②「よみかき」教室の安定的な活動、教室運営が行われるように必要なスタッフの配置を行うとともに、スタッフのレベルアップを図るための研修を継続して実施する必要がある。 引き続き、学習者のニーズを踏まえた日本語学習の場の提供に努める。	①11月にガイドの年度更新版を発行した。外国人市民等の相談窓口について、他市状況や国制度の調査を行い、国際化施策検討委員会で協議した。 ②●生涯学習市民センター（5カ所）・生涯学習交流センターで実施。延べ参加者数2,166名 ●スタッフのレベルアップを目指した「スタッフ研修」を実施（参加者数42名（1回目：26名、2回目：16名）） ●「北河内臨字・日本語交流会」（会場：交野市）へ参加（参加者数46名）	
年度ごとの達成状況	◎	

4. 多文化共生教育の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
小中学校における在日外国人教育・国際理解教育の推進を図るため、異文化理解のための学習会や授業研究を実施。	異文化理解のための学習会や授業研究を実施	児童生徒課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
今後、学校現場の教員が多文化共生教育の研究の場に積極的に参画できる環境を醸成し、取り組みのさらなる推進を図る。	講演会（6月・9月）、学習会（1月）、冬のつどい（2月）などを実施した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
日本語・多文化共生教室「よみかき」の学習者の満足度	年度末に実施する学習者向けアンケートにおいて、「この教室で日本語を勉強してよかったですか」の項目で「よかった」と回答した学習者の割合	80	%	教育政策課、文化生涯学習課	3. 外国籍の市民等への支援の充実
各年度の実績		95	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 教室への参加学習者のアンケートにおいて教室に参加して「よかった」という声を95%得るとともに、スタッフ研修参加者のアンケートにおいて80%以上の満足を得るなど、学習者、スタッフともに実施の成果があった。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
国際理解教育に努めている学校数	学校教育計画に国際理解教育について掲載している学校数	63	校	児童生徒課	4. 多文化共生教育の推進
各年度の実績		63	校	備考	
【施策指標の分析 R6】 市立小・中学校全校で国際理解教育を学校教育計画に掲載し実施できている。今後、国際理解や多文化共生に係る客観的な施策指標を検討する。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

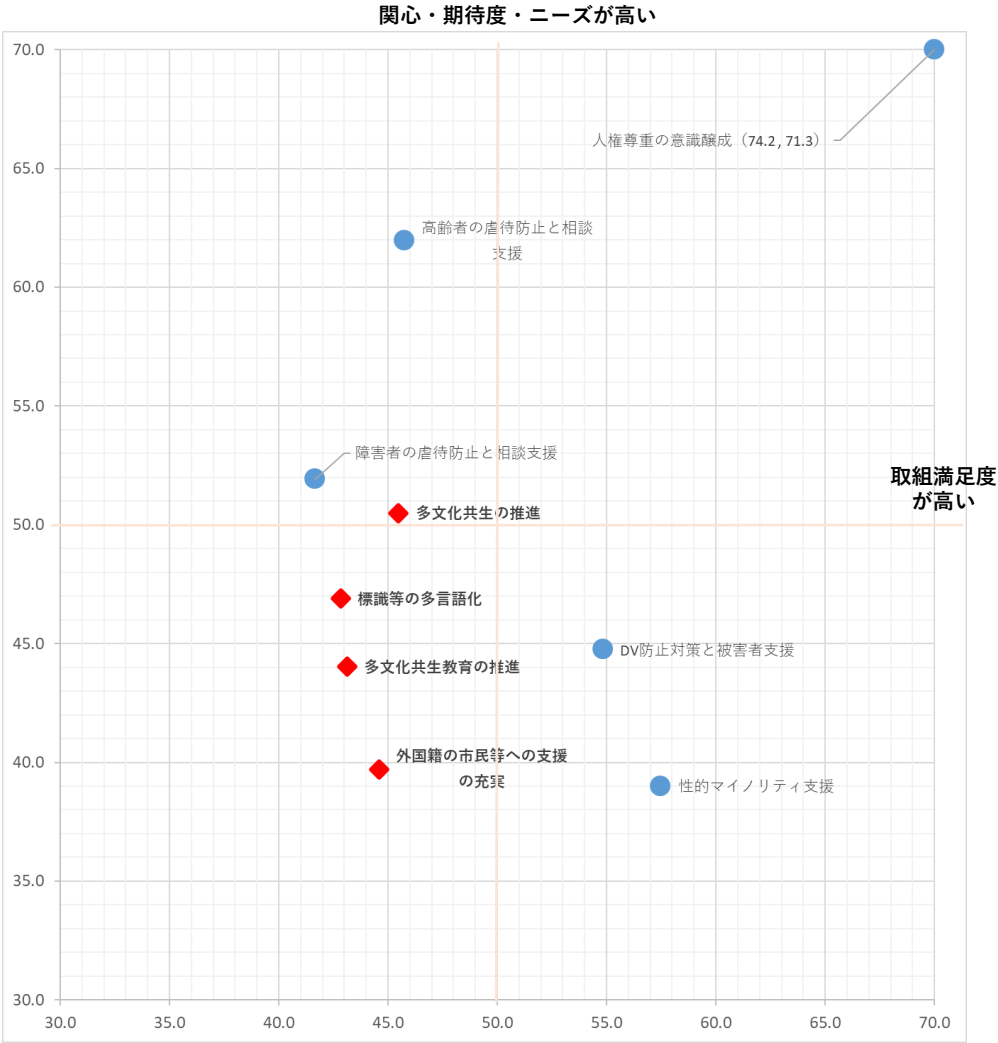
一人ひとりが人権を尊重
11_03 多文化共生社会の形成の支援

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
31.0%	11.5%	57.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
55.8%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『一人ひとりが人権を尊重』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『11_03 多文化共生社会の形成の支援』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 多文化共生の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「2. 標識等の多言語化」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「3. 外国籍の市民等への支援の充実」、「4. 多文化共生教育の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、多様な文化を認め合えるよう、人権教育・啓発を図るとともに、外国籍の市民等にとっても、住みやすいまちづくりを行っていく。
- ・生活満足度を高めるため、標識等の多言語化などの環境整備や、外国人市民等のための相談窓口の具体化に向けた検討を進める。

1. 施策の概要

施策シート【12_01】

市長公室、総務部、観光にぎわい部

施策名称		女性活躍の推進			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			
	施策目標等	12. 男女がともに参画し、個性を発揮できるまち			
めざす姿（主観的満足度）		男女共同参画社会が実現している			
概要		女性の職業生活などにおける活躍の推進を図るとともに、男女がともに仕事と生活を両立することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進 2. 市役所女性職員の活躍推進 3. 女性のための相談支援 4. 男女共同参画の推進 5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援			
	R7年度				
	R8年度	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進 ○ 2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合100%			
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度26.4%】

- ・年代別では、最も高いのが19歳以下で56.3%、最も低いのが60・70歳台で23.3%である。
- ・男性よりも女性が低い結果となった。
- ・昨年度と比較すると全体では、5.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合」、「男女共同参画に関する講座等の参加者数」、「周知啓発を行った市内事業者数」については、目標を達成している。「管理職に占める女性の割合」、「男女共同参画の理解が深まった人の割合」については、未達成だが、目標には近づいている。「支援に必要な相談機関につながった人の数」は未達成である。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
男性職員に対する育児に関する休暇・休業制度の全体的な周知。対象職員への育児参画の意義を含めた啓発を実施。	・幅広い年代へのアプローチとして研修時に育児の内容を盛り込む ・男性育児リーフレットのブラッシュアップ ・収入面の情報も含めた取得パターンの例示 ・課題解消につなげるための取得しない場合の理由聴取などの取り組みを推進	職員課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
令和6年度は目標を達成できる見込みであるが、7年度、8年度と段階的に高い目標設定としていることから、取り組みの更なる推進を図っていく。	・新入職員研修を初めとする各職制への研修の場で周知・啓発を実施。 ・リーフレットを改訂し、収入面に関する情報を盛り込んだ取得パターンを例示するなど、内容を充実させるとともに、対象者が所属長と面談しながら計画的な休暇・休業の取得ができるような内容とした。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
2週間以上の育児休業を取得した男性職員の割合	当該年度中に新たに連続2週間以上の育児休業を取得した市役所男性職員数／当該年度中に子が出生した市役所男性職員数	60	%	職員課	1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進
各年度の実績		74	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 これまでからの取り組みにより、少しずつ職員の意識変容が進んでいると感じており、取得率は年々向上している。令和7年度以降の目標も達成できるよう、今後も取り組みを推進していく。					

2. 市役所女性職員の活躍推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
管理職に占める女性職員比率について、30%を目指し、女性職員のさらなる活躍の推進を図り、女性職員のキャリア形成を促進。 管理職の魅力ややりがいアピールし、キャリアアップへの不安解消など、多くの女性職員が昇任意欲を持てるような取り組みを実施。	・キャリアデザイン研修の実施 ・女性管理職のロールモデルの提示等を行う	人事課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
幅広い年齢層の職員を採用していることから、より早期から男女問わずキャリアを考える機会を設けるため、新入職員及び主任2年目にキャリアデザイン研修を実施する。 また、女性管理職の生の声を聴くことで、管理職員の魅力ややりがいを知るとともに、キャリアアップへの不安解消を図るため、引き続きロールモデルの掲示や座談会を実施する。	・入職10年目または主任2年目職員を対象に、1月にキャリアデザイン研修を実施した。 ・女性管理職のロールモデルとして、インタビュー記事をグループウェアの掲示板にて掲載した。 ・新任主査等の女性職員を対象に、女性管理職との座談会を実施した。	
年度ごとの達成状況	○	

3. 女性のための相談支援

取り組みの内容	R6年度	担当課
「男女共生フロア・ウィル」で女性・男性及びLGBTQなど、性別に係る困りごとに関する相談を実施。	・女性のための面接・電話・法律相談 ・男性のための電話相談 ・LGBTQ+相談（電話・オンライン（チャット））	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
各種相談について、今後も実績を注視しながら、相談ニーズに応じた事業展開を図っていく。また、相談機関相互の連携を密にとっていく必要がある。	男女共生フロア・ウィルにおいて、各種相談を実施した。また、他部署の相談機関からの紹介による来所が増え、相談機関相互の連携が密になった。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
管理職に占める女性の割合	市役所における女性管理職／全管理職	30	%	人事課	2. 市役所女性職員の活躍推進
各年度の実績		28.1	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 管理職員の魅力ややりがいを知ってもらうため、女性管理職のロールモデルを紹介したほか、キャリア・アップの不安解消を図るため、女性管理職との座談会を実施した。今後も女性職員のさらなる活躍の推進のための取り組みを進めていく。					

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
支援に必要な相談機関につながった人の数	男女共生フロア・ウィルの窓口や相談事業において、相談をした人のうち、それぞれの必要とする支援を受けられる相談機関につながった人数	30	人	人権政策課	3. 女性のための相談支援
各年度の実績		15	人	備考	
【施策指標の分析 R6】男女共生フロア・ウィルの窓口や相談事業において、機関連携し支援窓口につながった人が一定見られたため、引き続き支援機関との連携を強化していく。					

4. 男女共同参画の推進

取り組みの内容	R6年度	担当課
市民の男女共同参画意識の向上に向け、男女共同参画に関する啓発講座等を実施。 第3次枚方市男女共同参画計画に基づき、男女共同参画を推進。	・市民を対象とした男女共同参画に関する講座やイベントを開催 ・本市の審議会の女性委員登用を促進	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
・男女共同参画に関する様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。 ・本市の全ての審議会の女性委員比率35%を目指すとともに、35%を達成することが困難な状況改善に向けて検討する。	・男女共同参画に関する様々なテーマで幅広い市民への啓発を行った。 ・本市の全ての審議会における女性委員の比率を35%以上を目指し登用を促進した。	
年度ごとの達成状況	○	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
男女共同参画の理解が深まった人の割合	男女共生フロア・ウィルの講座やイベントに参加した人のうち、アンケートで男女共同参画の理解が深まったと回答した人数／アンケート回答者数	95	%	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		91	%	備考	
【施策指標の分析 R6】男女共同参画に関する講座全般において、男女共同参画の理解が深まったとの回答率が高いため、引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。					
男女共同参画に関する講座等の参加者数	男女共生フロア・ウィルで実施する講座等の参加者数	594	人	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		722	人	備考	
【施策指標の分析 R6】男女共同参画に関する講座全般において、一定の参加があり、特に毎年実施の週間事業、映画上映会において多数の参加者が見られる。引き続き様々なテーマで幅広い市民への啓発を行っていく。					
審議会等への女性委員登用率	女性委員比率が35%を達成している審議会等／全審議会等	60	%	人権政策課	4. 男女共同参画の推進
各年度の実績		55.6	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 女性委員が35%を満たさない理由として、「充て職に限らず関係団体から推薦のあった委員が男性」、「審議事項の継続性を確保するため、女性委員比率に達成していない場合であっても委員を変更しない」、「依頼分野に女性が少ない」が多く、社会構造的に女性の長や役職が少ない事や推薦をもらう団体内に女性が少ないことが関係している。					

5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援

取り組みの内容	R6年度	担当課
市内事業者の労働環境改善に向け、国・府と連携して啓発を実施。	・国制度の認定を受けた市内事業者を取材し、取組事例などをHPやSNSで発信して啓発 ・市内事業者を対象としたセミナー等を開催	商工振興課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
市内事業者の労働環境改善に向けて、くるみん・えるぼし認定等の取得や各種相談窓口など、周知や普及啓発を行う必要がある。	・誰もが働きやすい職場づくりのための関連情報を事業者向けに6件掲載した。 ・周知方法を工夫し、想定より多くの市内事業者に周知することができた。(1,216件) ・くるみん認定を受けた市内事業者を取材し、取組事例をHPやSNSで発信した。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
周知啓発を行った市内事業者数	セミナー等を通して、直接周知啓発を行った市内事業者数	600	件	商工振興課	5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援
各年度の実績		1,216	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 市内事業者の労働環境改善に向けた取り組みを推進するため、市内事業者に対し啓発活動を行う。					
くるみん・えるぼしの認定を受けた市内事業者数	くるみん・えるぼしの新たな認定又は更新の認定を受けた市内事業者数	—	件	商工振興課	5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援
各年度の実績		—	件	備考	
【施策指標の分析 R6】 —					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

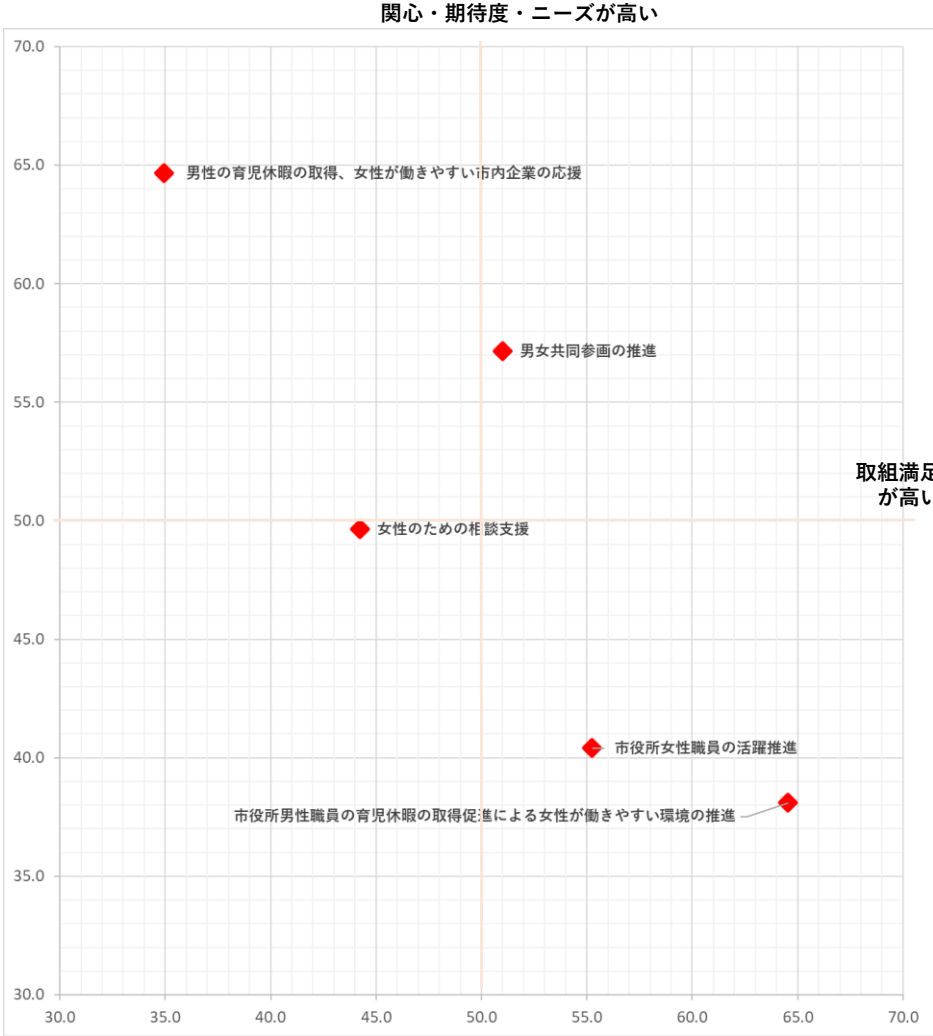
男女共同参画社会が実現している
12_01 女性活躍の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
26.4%	15.1%	58.6%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
56.8%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『男女共同参画社会が実現している』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『12_01 女性活躍の推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 市役所男性職員の育児休暇の取得促進による女性が働きやすい環境の推進」、「2. 市役所女性職員の活躍推進」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは低い。
- ・「4. 男女共同参画の推進」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は低い。
- ・「5. 男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援」については、関心・期待度・ニーズが高く、満足の決め手としても一定数選ばれているが、他の取組に比べて相対的に取組満足度が低い。
- ・「3. 女性のための相談支援」の取組満足度は低いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、女性の職業生活などにおける活躍の推進を図るとともに、男女がともに仕事と生活を両立することができるよう、満足度の向上に向けて、ワーク・ライフ・バランスの推進を図っていく。
- ・男性よりも女性の満足度が低い結果から、引き続き、女性の社会進出の促進に向け、特に関心・期待度・ニーズの高い「4.男女共同参画の推進」及び「5.男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援」の取り組みを推進する。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

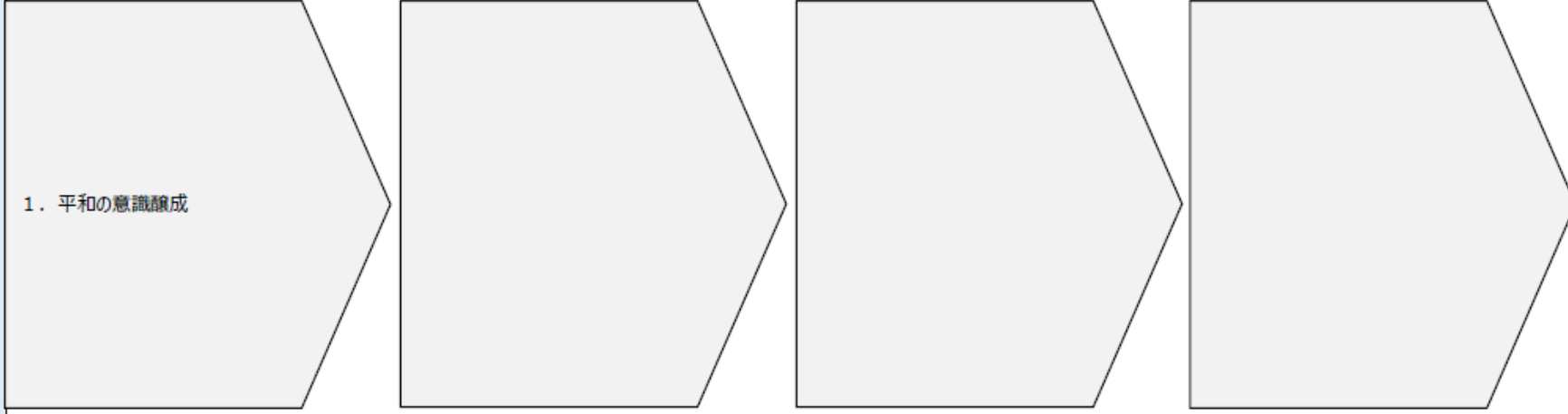
施策評価員による評価

- ・おおむね目標値、あるいは目標値を上回る実績が得られており、市民満足度も前回よりもかなり高い結果であることから、当該施策を継続することで、市民の意欲を後押しできる環境づくりやシステム構築に寄与できることを期待する。
- ・施策や事業は目標に向けて進んでいるが、目標達成できていないところをどのような修正していくのかを検討する必要がある。受動的あるいは一方向的な取り組みがみられるので、実際に効果のある方法に組み替えていくことを検討してほしい。
- ・公的機関が率先して、女性の社会進出・活躍推進・男性育休率を高めていくことで、民間企業も追随していくと考える。
- ・昨今は、育児休暇に加え、介護休暇にも着目する必要があるのではないかと。親の介護のために離職せざるを得ないケースも増えてきており、今後は介護休暇制度の利用状況なども指標の一つに入れてもよいのではないかと。
- ・子育てについては、例えば、子どもの急な発熱によって、仕事を急遽休まないといけなくなったり、遅れての出勤、あるいは早めの退勤などもあるため、職場全体の理解が求められる中、そうした理解に向けて、うまく取り組む市町村や企業があれば参考にし、検討を進めていただきたい。

1. 施策の概要

施策シート【13_01】

市長公室

施策名称	平和意識の向上			
総合計画体系	基本目標等	2. 健やかに、生きがいを持って暮らせるまち		
	施策目標等	13. 平和の大切さを後世に伝えるまち		
めざす姿（主観的満足度）	平和の大切さが継承されている			
概要	平和な社会の実現に向けて、平和意識の向上を図り、戦争の悲惨さを後世に伝える取り組みを進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
				
	1. 平和の意識醸成			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度52.6%】

- ・年代別では、最も高いのが70歳台で60.1%、最も低いのが40歳台で44.9%である。
- ・昨年度と比較すると全体では、6.6ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

1. 平和の意識醸成

取り組みの内容	R6年度	担当課
戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代の子どもたちに伝え、市民に平和について考える機会をより効果的に実施するため、次世代を担う青少年をターゲットとした内容や広報の見直しを実施。	企画（参画してくれる若者の募集、勉強会・意見交換・とりまとめ）	人権政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	備考
ターゲットとしている青少年の参加割合をさらに増やすため、広島や長崎など先進的な取り組みも参考に、若い世代の参加意欲が高まるような平和啓発事業の内容や広報などについてアップデートしていく必要がある。	・10月と12月に、中学生と「枚方から平和を発信できるイベントを開催したい」をテーマに学習する機会を持った。 ・今まで戦争や平和について、身近に感じていなかった若い世代から「出来ることから始める」など前向きな感想が寄せられた。	
年度ごとの達成状況	◎	

指標名	指標の説明	R6	単位	担当課	関連する取り組み等
平和啓発事業に参加した人の満足度	平和啓発事業の参加者へのアンケート調査で、満足した人の割合。	85	%	人権政策課	1. 平和の意識醸成
各年度の実績		92	%	備考	
【施策指標の分析 R6】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、満足したと回答した人の割合が高いため、今後も引き続き、事業内容の精査に努め平和啓発を行っていく。					
平和に関するイベントの参加者数	3月1日の「枚方市平和の日」などに開催する平和に関するイベントの参加者数	2,500	人	人権政策課	1. 平和の意識醸成
各年度の実績		2,665	人	備考	
【施策指標の分析 R6】 実施したさまざまな平和啓発事業全般において、一定の参加者があり、定員を超える申し込みのあった事業もあった。今後も引き続き事業内容の精査に努め平和啓発を行っていく。					

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

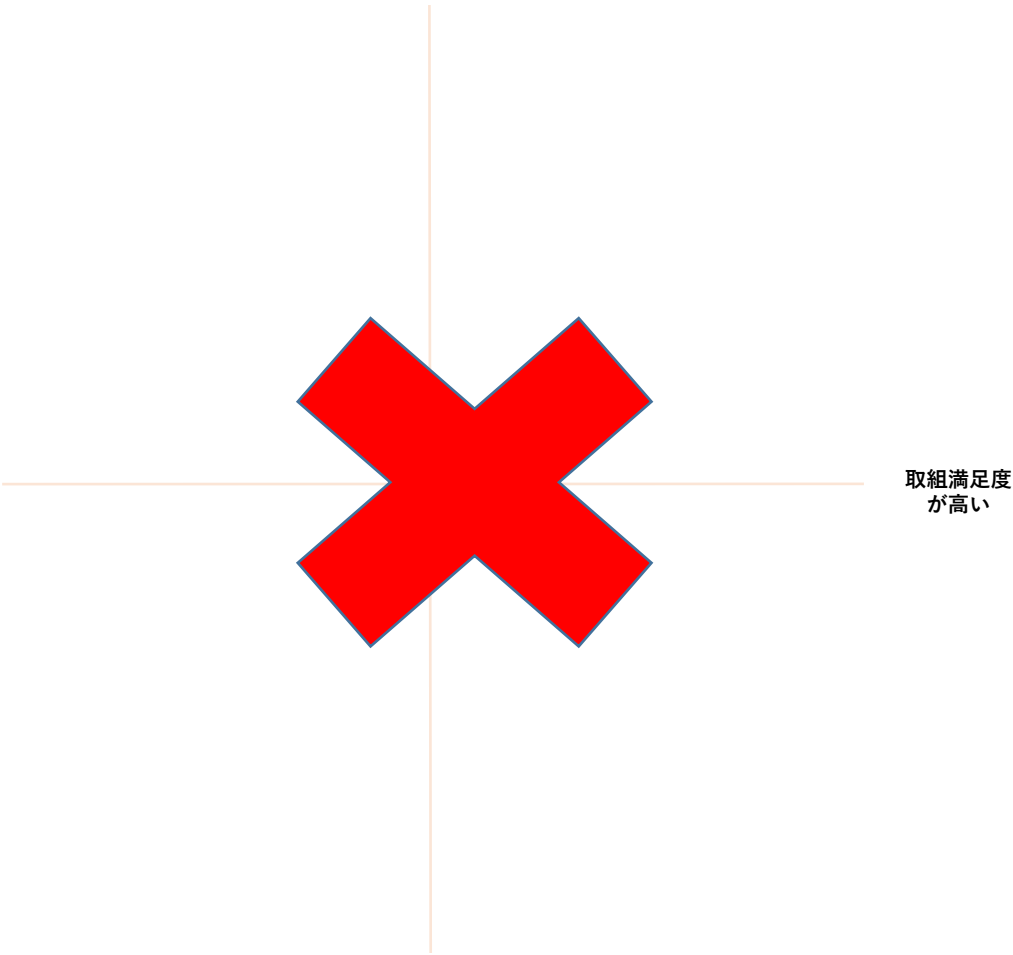
平和の大切さが継承されている
13_01 平和意識の向上

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
52.6%	9.5%	37.9%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
56.1%		

※回答数／全体数1,121

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・平和の意識醸成

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性として、引き続き、計画に基づいて取り組みを進める。
- ・世代に応じた事業実施の内容と伝え方の双方に視点を置き、関係部局との連携など工夫を図ることで、より効果的な啓発を進める。
- ・さまざまな平和啓発事業において、引き続き周知・啓発を行い、イベントへの参加者の増加を目指す。